

古墳を探検する前に

- ① 古墳とは古墳時代(約一七〇〇年前〜一三〇〇年前)のお墓です。
- ② 古墳は身近な場所にたくさんあります。
- ③ ほとんどの古墳は、土を盛って造った小山のような「墳丘」を持ち、その形や大きさに大きな意味があります。
- ④ 墳丘の表面はもともと石で覆われていたり、埴輪が立てられていたものもあります。
- ⑤ 墳丘の中には死者を納める棺や、その棺を納める室があり、これには多種多様なものがあります。
- ⑥ 棺や室の中には、死者への贈り物が納められています。「これを「副葬品」と言い、身分や時期によって違いがあります。
- ⑦ 古墳に葬られる人は限られた人たちです。
- ⑧ 古墳はみんなの貴重な財産です。勝手に掘ったり、見つけた埴輪や土器などを持ち帰らないでください。

「一般に」「古墳」と言ったら、「古いお墓」「大きくなって山のようなお墓」「よくわからないけれど、地面の下から出てくるお宝のもの」など、さまざまなイメージがあるようです。「この本では古墳を知っている方にも、全然知らない方にも、いつもと違う見方で「古墳」を再発見していただきたいと思えます。みなさんを古墳へと案内する古墳探検隊を紹介する前に、まず古墳の基礎知識を述べておきます。

年表

1,300 年前	1,400 年前	1,500 年前	1,600 年前	1,700 年前
奈良時代 <small>『古事記』『日本書紀』が書かれる。</small>		古墳時代 <small>弥生時代・墳丘を持った墓が造られ始める。</small>		
		終末期 <small>(飛鳥時代) 聖徳太子が活躍する。</small>	後期	中期
				前期

私たちがいつしよ、古墳を探検しよう！



それでは探検隊を紹介します。みなさんも彼らといっしょに古墳探検の旅に出発してください。

古墳探検マニュアル＊はじめに

「古墳」は身近な文化財

新聞やテレビで、「古墳から剣が出土した」「県内最古の古墳が発見された」などと報道されることがよくあります。「こうした報道を見ると、まるで古墳は珍しい存在のように思われがちですが、実際には私たちの身のまわりには、非常に多くの古墳があります。しかしその存在を知っている人は、意外に少ないようです。

古墳の探し方から歩き方までを紹介

近くに古墳があることを知っていても、見学に行つたことはいない、という人は多いと思います。ましてやその古墳がいつ、どんな人を葬つたお墓なのかを知っている人は、ごく少数でしょう。そこで本書では、古墳を自分で実際に探したり古墳にもっと親しむために必要な、地図の見方から古墳の歩き方まで、具体的な方法を紹介します。

冒険心を求めて、古墳探検に出かけませんか

子供のころ、近くの野山の中にはいつて遊んでいるうちに、大きな穴や不思議な形の石を見つけたことがありますか。ひと昔まえまでは、身近に「こうした探検」する場所がたくさんありました。しかし最近の子供たちは、「こうした体験をあまりしていないようです。」「クワドキドキしながら、何かを発見する」楽しさは、子供たちにぜひ味わってもらいたいものです。さらに「こうした冒険心は、大人になっても持ち続けてほしいものです。本書の後半では、島根県内にある古墳をできるだけ多く紹介しました。これらの古墳を実際に探検することで、冒険心を味わい、地域の歴史を探検していただくことができれば、幸いです。

目次

古墳探検マニュアル	2
古墳を探検する前に	3
探検隊に入門する	4
古墳を探そう＊古墳のある場所	4
歩いてみよう＊古墳の形	6
足をよく見よう＊古墳を飾るもの	10
石を見つめよう＊主の眠る場所	12
訪ねてみよう＊主への贈り物	16
一目でわかる古墳の見方・調べ方一覧表	18
古墳なんでもランキング	20
島根県内の古墳を探検する	21
エリア1・安来市・能義郡	22
エリア2・島根半島	23
エリア3・松江市とその周辺	25
エリア4・宍道湖南岸	26
エリア5・出雲市とその周辺	28
エリア6・奥出雲	30
エリア7・石見海岸東部	31
エリア8・石見山間東部	33
エリア9・石見海岸西部	35
エリア10・石見山間西部	36
エリア11・隠岐島前	37
エリア12・隠岐島後	39
古墳Q&Aコーナー	41
あとがき・古墳時代の島根県	44

探検隊に入門する



古墳を探そう

古墳のある場所

古墳はどんなやうなところにあるのでしょうか。遠く離れた山の上、隣町の古墳公園の中、もちろんそれも正解です。しかし古墳はもっと身近な所にもあるのです。窓を開けて外を見て下さい。遠くへ、あるいはすぐ目の前に山があれば、これまでも気づかないうちに古墳を見ていたはずです。

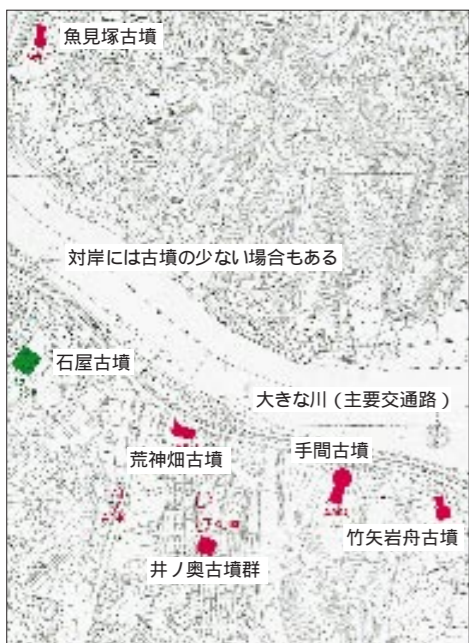
島根県は、古墳の多い地域です。現在みなさんの住んでいる平野に面した丘陵の上や、台地の上、そして平野の中にも見つけることができます。一つ古墳を見つけて「コツをつかめば、つぎつぎと古墳を見つかることも夢ではありません。ひょっとしたら、まだ誰も知らない、大きな古墳を見つかることができるかもしれません。どこでも、誰にでもつき、そしてちょっとワクワクする古墳探し。さあ、あなたも「古墳探検隊」と一緒に出発しよう。

矢田古墳群想像図



矢田古墳群(安来市矢田町)

丘陵の先端部に大きな古墳がある例 / 松江市大橋川南岸(当時の交通の要衝にあることが多い)



松江市遺跡地図より

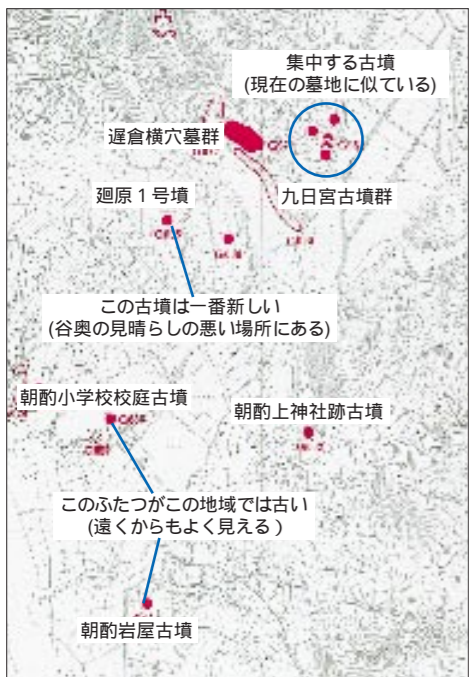


行き先は地形を見て探す
遺跡地図を見て自分が行きたい古墳を探そう。まず歩いて上がれそうな低い(ふもと)が30メートルくらい(丘陵や台地)を見つけてください。丘陵は、周囲が平地に囲まれている。かつ山がなだらかに連続したような長い尾根の所がベストです。また平地に島が浮かんでいるよう

な、独立丘陵もいでしょう。

古墳は尾根や台地先端の頂上、つまりまわりの平野が見下ろせる眺めのよい所にあるはず。もし先端で見つからなくても、尾根上を歩き続けるうちに、より高いところで見つかるかもしれません。このほか、平野のまん中にボツンと一基だけある古墳もあります。

大きな平野を囲む丘陵に散在する例 / 松江市朝酌町(一つのまとまりのある地域)



松江市遺跡地図より



迷惑をかけるないように

古墳が民家の近くや畑の中にある場合は、断りを入れてから、作物などを荒らさないように注意して見学しましょう。車を止める場合も同様です。また地元の人に会ったら、古墳の場所などを聞くとよいでしょう。

出かける前に遺跡地図で探る

一九九六年現在、島根県で見つかった古墳は、全部で四五 基を超えます。どんなやうな古墳があるのかについては、県あるいは市町村が「遺跡地図」といつかたちでまとめています。

遺跡地図は各市町村の教育委員会や図書館などに置いてあり、これを見ればいかに身近な場所に古墳があるかがよくわかるでしょう。地図の読み方をよく学び、方なら、どんな地形の所に古墳が多いかというところまでわかるはず。古代の遺跡や戦国時代の山城といった古墳以外の遺跡も載っています。



注意！古墳は自然の一部

「せっかく古墳のありそうな山を見つけたけれど、草木が茂っていては入れない」といふことがよくあります。きちんと整備された古墳ならいつでも簡単に見ることができそうですが、ほとんどの古墳はふだん人のはいらない山の中にあるため、探検するうえでいろいろの障害に出会います。ここでは、注意すべき点と対策について考えてみましょう。

1・ベストシーズンは晩秋から初春にかけて

草が枯れ、ヘビやハチなども出ない晩秋から初春にかけてがおすすめです。

2・服装にも注意

虫に刺されたり、草木で傷ついたり、長袖、手袋など、できるだけ皮膚を露出しない服装で出かけましょう。半袖、半ズボン、半ズボン、半ズボンは厳禁です。また、つぎのような植物には、とくに注意してください。



アザミ



ハゼ

3・山道を登る

どんな山でも、道はありません。道のない所を歩いていくと、迷ったり、野性動物に出会う危険があります。ただし山道であっても、最近では使われていない場合、同様の危険がありますので注意してください。すこしでも怪しいと思ったら、すぐに引き返すこと、安全第一です。



古曾志大谷 1号墳 (発見時)

古墳を見てまず驚くのは、その大きさと、ふたつ、大量の土を盛って、山のように築き上げられた墳丘。日本の歴史の中で、こんなに大きな墓を造っていた時代があったのです。なにかおもしろいところ、この墳丘の形や大きさに、はまるとまなまものがあり、そこには何か理由が隠されています。

よく知られた古墳の名前に、前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳などがあります。これは古墳の墳丘を真上から見た形を表現したのですが、当時の人たちは空から見下ろすことなどできなかつたはずなのに、上から見ることを意識していたとしか考えられないほどの古墳も整った形をしています。



歩いてみよう

古墳の形



古曾志大谷 1号墳実大模型
(松江市・古墳の丘古曾志公園)

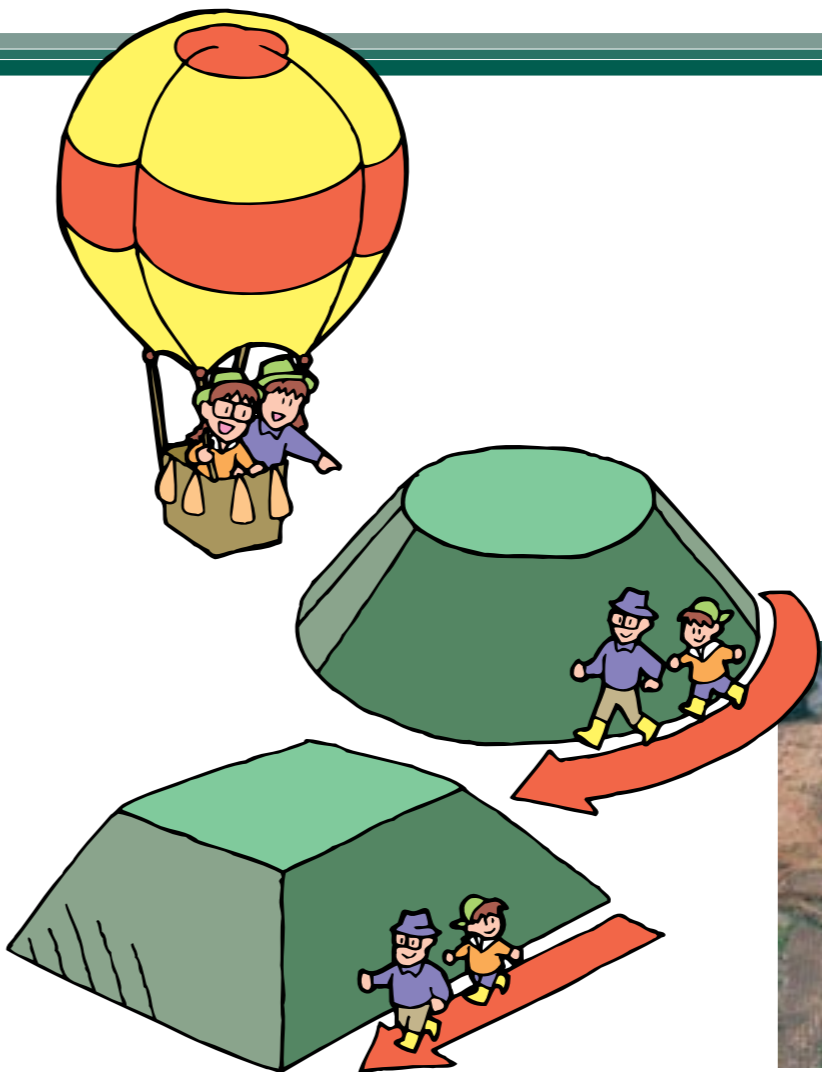
古墳の形を知る

上から見た形

古墳には前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳などがありますが、これらはみな真上から見た形をあらわした言葉なので、空から見ないかぎり実感できません。「こ」では視点を变えて、古墳を歩く「こ」によって、その形を探る方法を紹介しましょう。まず、古墳の裾を見つめます。見つけたら裾に沿ってぐるぐる歩いてください。まっすぐ歩いたら方墳、弧を描いて回るようだったら円墳です。



空から見た前方後円墳（浜田市・周布古墳）

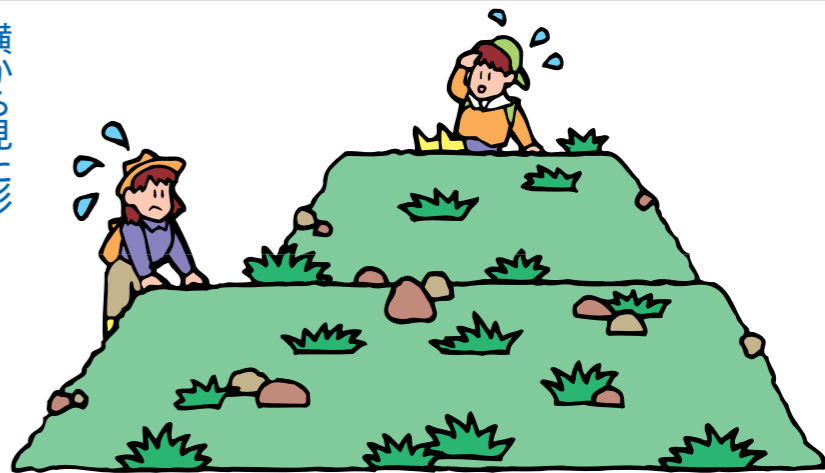


古墳の大きさを知る

自分の体が「ものさし」

小さな古墳の大きさを測るには、三〇メートルの巻尺があれば十分です。しかし大きな古墳の場合や巻尺を持っていない場合は、自分の体で測ることが出来ます。長さだけ測りたい場所を歩いた歩数と自分の歩幅から計算して出します。自分の一歩がどのくらいか、出発前に測っておきましょう。

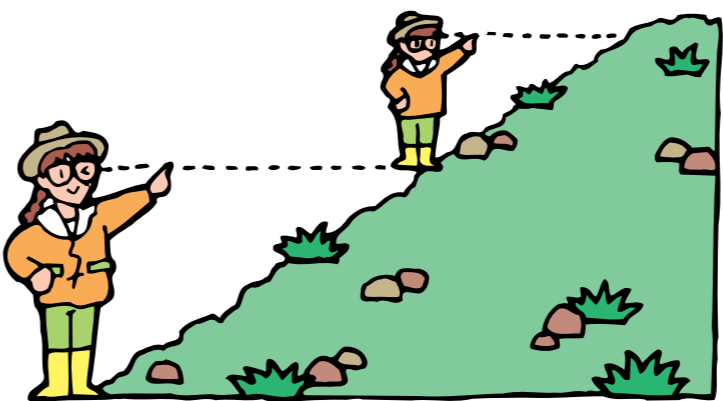
高さを測るには、まず自分の目の高さまで登ってみます。これを繰り返せば、おおよその高さが出るはずです。ただしこの場合、自分の目が地面に対してちゃんと平行になっているか、注意することが大切です。



横から見た形

古墳は横から見た場合も、それぞれ個性を持っています。古墳の高さや、斜面に段があるなどの変化がそつです。平面の大きさのわりに背の高いものがあつたり、二段や三段に造られたものもあります。

こうした特徴を知るには、二〇メートル以上の大きな古墳の場合、実際に古墳に登ってみる事です。裾から頂上へ上がる時、途中に平らなところが一カ所あれば二段になった古墳です。



形・大きさの意味を知る

古墳は力の表現？

古墳を造るには、大勢の人の力が必要です。多くの人を使える有力な立場にある人たちが、大きな古墳が造られたのではないのでしょうか。大きな古墳や、たくさん古墳が造られたのは、大きな平野がある地域です。平野が大きいということは、それだけたくさん米が生産され、多くの人びとが生活できることを意味します。この多くの人たちをまとめていく過程で、人びとのあいだに上下関係ができ、古墳を造って埋葬

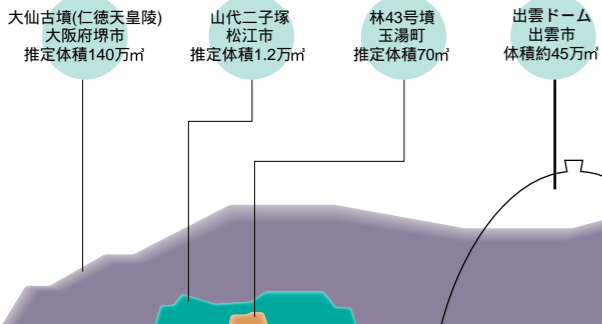
される有力者と、そうでない人が生まれたと考えられています。

古墳を造るには許可がいる？

古墳に埋葬された人たちは、すべて同じ古墳を造ることができたのでしょうか。各地の古墳をよく見ていくと、それぞれの地域に個性があることに気がつきます。たとえば松江市周辺は、全国的に見て、方墳や前方後方墳がかなり多く見られます。また大きさは違ってもそっくりな形をした古墳が、まったく違った地域で見られることがよくあります。これは全国的に見られ、一枚の設計図によって造られた古墳が複数あるためと考えられています。「これら」のことを考え合わせると、古墳を造ることを許可したり、形に関して指示を出したりする人間がいたのかもしれない。もしそうだとすると、その頂点に立つのは、全国で最大の前方後円墳のある畿内（現在の関西地方）に住んでいた人たちの可能性が強いと考えられています。

古墳の大きさ(体積)の比較

(高さは長さの1.5倍に表現)

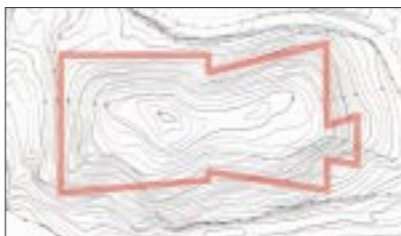


モデルチェンジをする墳丘の形

墳丘の形は時期によって変化し、とくに前方後円墳と前方後方墳の前方部にその特徴が強く見られます。県内の前方後方墳を例にとると、最古のものは前方部



4世紀ごろ 松本3号墳 (三刀屋町給下)



5世紀ごろ 古曾志大谷1号墳 (松江市古曾志町)



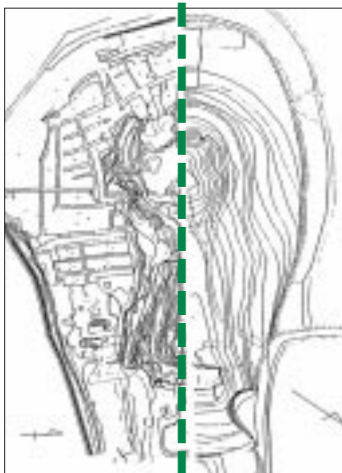
6世紀後半ごろ 古天神古墳 (松江市大草町)

大きさも形もそっくりな古墳

前方後円墳や前方後方墳といった幾何学的な形をした古墳に、設計図があつたと考えるのは自然なことです。左の図は、二つの古墳の測量図の縦半分をくっつけたものです。両者はそっくりで、一見する

二つの古墳のよつばさ

大念寺古墳はまわりが墓地によって壊されていますが、石室の方向も一致し、墳丘もよく見ると、こつこつり塚古墳に似ていることがわかります。両者は同じ設計図を用いて造られたのでしょうか。



大念寺古墳 (出雲市今市町)



妙蓮寺山古墳 (出雲市下古志町)

こつこつり塚古墳・江崎古墳測量図は、岡山県史より。大念寺古墳測量図は、史跡大念寺古墳保存修理事業報告書より転載。一部改変。



足元をよく見よう

古墳を飾るもの

今では草木に覆われている古墳ですが、はじめから生えていたわけではありません。では、造られた当時の古墳の表面は、どうなっていたのでしょうか。ただ土が盛り上げていただけだったのでしょうか。「いやそんなことはない、有力者の墓なんだから、きつと何かで飾られていたに違いない」。そう思う人はいませんか。

実際、古墳の表面はいろいろなもので飾られていたことがわかっています。「葺石」と言われる、こぶし大からひと抱えもある石によって墳丘の表面を覆いつくした例や、粘土で作ったさまざまな形をした焼物「埴輪」を並べたもの、また最近の発掘調査では、木製の埴輪が見つかっている古墳もあります。

葺石で覆われ、遠くから見ると白く輝いて見える古墳。人物、馬、家などの埴輪が立てら

古墳の実大模型(松江市古曾志町・古墳の丘古曾志公園)



周布古墳の葺石

れた古墳。とてもにぎやかな様子が浮かんできませんか。「これらの遺物は、その周辺を歩くことにより見つかるともいれませんが、コシは足元をよく見て歩くことです。」



古墳公園を訪ねる

古墳は埴輪で飾られていたり、石によって覆われていることがあります。どのように飾られていたのかを実感するために、まずは復元された古墳を見に行くことにしましょう。

葺石

古墳が現在まで残っているのは、墳丘が崩れないように、土を盛るときにさまざまな工夫がなされているからです。葺石もその一つで土留めの役割を担っていました。ほかに表面を視覚的に飾る意味も強かったと考えられています。しかし葺石のまったくない古墳も多く、とくに小さな古墳の場合には、ほとんどありません。

埴輪

古墳時代に暮らした人びとの服装や住まいを現代に伝えてくれる、人の形や家の形をした形象埴輪は、古墳に関する遺物の中で、私たちに一番なじみがあるものかもしれません。しかし古墳に並べられているのは、ほとんどが人や家の形をしていない、円筒形埴輪と呼ばれる埴輪です。

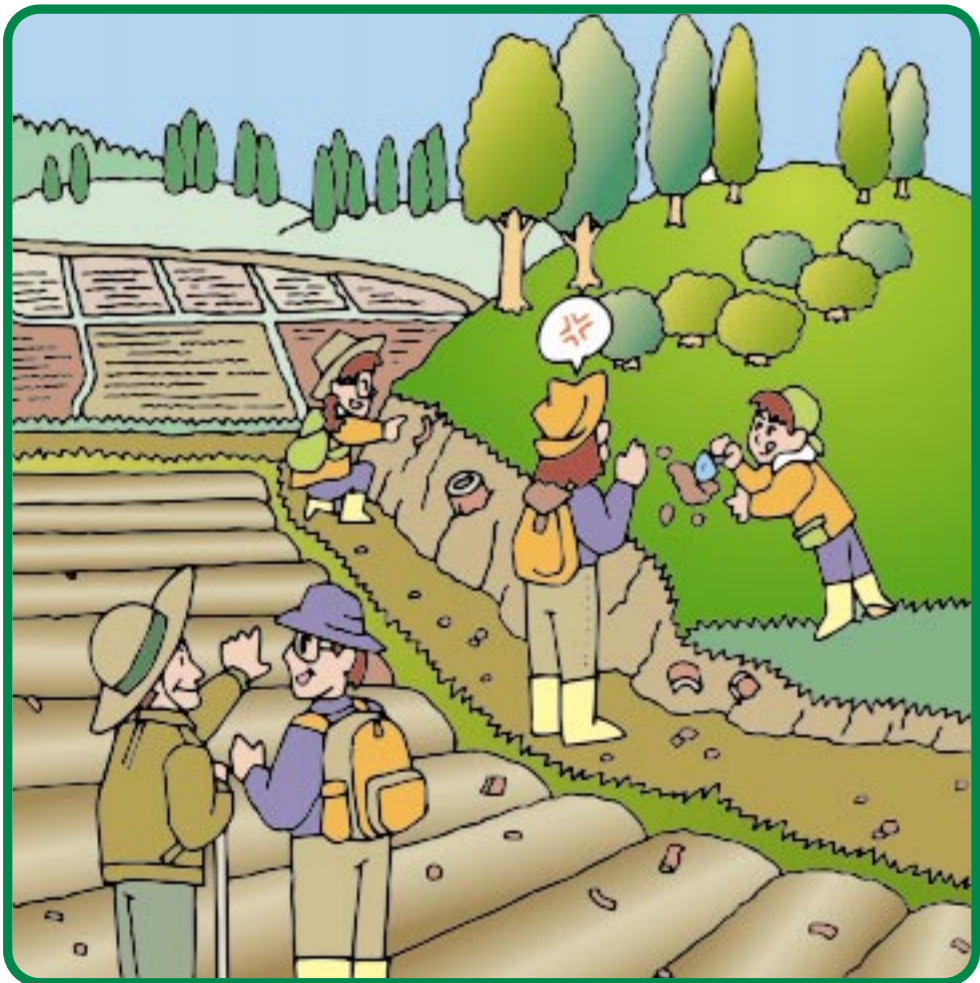
円筒形埴輪は、弥生時代に土器の壺を載せるための筒形の台として生まれ、古墳時代に最初の埴輪として採用されたものです。単純な形をしていますが、古墳の造られた時期を判定する決め手として、とても役に立つ埴輪です。

埴輪を探す

復元された古墳では、石や埴輪はもとの場所に並べられていますが、実際の古墳の場合はどうでしょうか。墳丘の大きな古墳に行くと、その裾に転落した埴輪や葺石が見つかる場合があります。葺石はもとの位置に残っている場合もありますので、墳丘の斜面に落ちていた木の下から見つけるかもしれません。



埴輪発見!(松江市大草町・岩船古墳)



古代石見人が最初に葺石を使った?

古墳時代が始まる前の弥生時代中期(およそ二〇〇年前)に、江津市の砂丘や広島県の山間部などに、斜面に石を貼り付けたお墓が現れます。このタイプの墓は出雲を中心に発展し、「四隅突出型埴輪墓」という、古墳のさきがけのような墓として流行します。この「墓を石で覆う」という発想や技術は、古墳時代にも生かされた可能性があります。ただし四隅突出型埴輪墓の埴輪自体は、古墳時代の葺石には見られない芸術的な並べ方がされています。



埴輪の破片を見つける

古墳のまわりを探したとき、いちばん多く見つかる埴輪の破片は、円筒形埴輪です。一見ふつふつの土器のようですが、二センチ前後と厚く、幅一センチほどの四角い帯が貼りついている部分があれば、ほぼ円筒形埴輪の破片に間違いありません。



円筒形埴輪の破片

復元された埴輪たち

写真に見える家や馬、人物のほか、戦いで使う刀や盾などの武器、ニリトリヤイノシシなどの動物、船などがあります。



平所遺跡(松江市)出土品



石を見つけてみよう

主の眠る場所

古墳とはお墓なのですから、その主が葬られているはずですが、ではいったいどこに葬られているのでしょうか。主の眠る場所は、入口が埋められたりふさがれたりしています。たとえ墓穴が見つかっても、多くの古墳に使われ

ている木製の棺は、永い年月のあいだに朽ち果ててしまい、見る事ができません。いま見ることが出来るのは、石で造られた棺や、それを入れる石積みや石室の部屋だけです。主の眠る場所を見つけて「コソ」は石を見つけてやるのです。

古墳時代は三〇〇年以上も続いたため、時期によって変化が見られます。主を入れる棺と棺を入れる部屋(室)も時期や、あるいは身分によって違いが見られます。



島根では珍しい長持形石棺。古墳の上に大きな石があり、文様が刻まれている。(松江市古曾志町・丹花庵古墳)



タテ穴の墓とヨコ穴の墓

古墳時代のはじめから造られたタテ穴の墓

墳丘の上にタテ穴を掘り、棺を納めるという埋葬法は、古墳時代より以前の弥生時代にすでに見られます。また古墳時代の初めころは棺を埋めたあと、その上でお祭りを行った形跡が見られ、これも弥生時代と共通しています。

石で造られた棺にはさまざまなものがありますが、いちばん多いのが板状に割った石で造られた、箱形の石棺です。凝灰岩などのやわらかい石を丁寧に加工して造られた舟形石棺や、長持形石棺は非常にまれです。また木棺を納める石積みや石室である竪穴式石室は、初期の大きな古墳によく見られますが、ほとんどの古墳は棺を直接墓穴に入れていきます。



安養寺1号墳をモデルに復元された「タテ穴の墓」(仁摩町サンドミュージアム内)

古墳時代終りに造られたヨコ穴の墓

古墳時代も終りに近づく六世紀ころ、古墳に一大変化が訪れます。石を積み上げて造る「横穴式石室」と、山の斜面を直接掘り込んで造る「横穴墓」の登場がそれです。ヨコ穴の墓には棺や遺体を入れる部屋や、外から部屋へ通じるトンネルを備えています。この変化はたんに入れ物の形が変わったというだけでなく、死後の世界に対する人びとの考え方が大きく変わったことを意味しています。

両者の関係は一五ページで紹介しますが、県内の古墳でよく知られるものは、この二つが圧倒的な割合を占めています。理由としては、横穴墓は非常に数が多く、横穴式石室は墳丘の土が流れてもそのまま残ることが多いこと、なによりもその石の大きさが目立ち、発見しやすい点にあるでしょう。



安養寺2号墳をモデルに復元された「ヨコ穴の墓」(仁摩町サンドミュージアム内)

古墳の主 探検マニュアル

それでは、いよいよ古墳の中を調べてみましょう。主の入れられた棺や、部屋が見つかるかもしれません。コツは石を見つけることです。さあ、古墳探検のハイライトへ出発!

古墳の上に登って石を探す



横穴式石室と横穴墓を比べてみる

似てないよ！とよく似てるよ！

「同じ群馬県内各地にたくさんある」「石室の墓の見方を説明します。」「これは古墳時代の終りの「六世紀後半」から「七世紀」にかけて造られたもので、各地域ごとに異なった特徴を持っています。」

横穴式石室

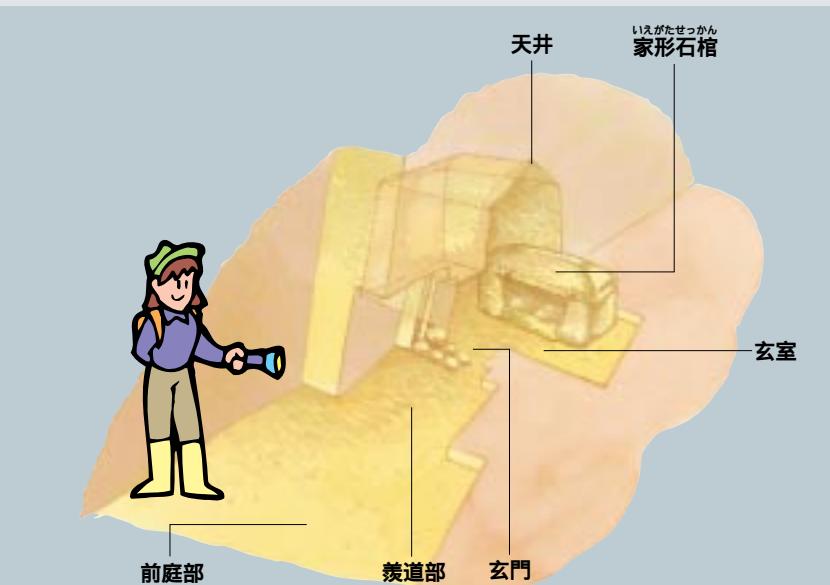
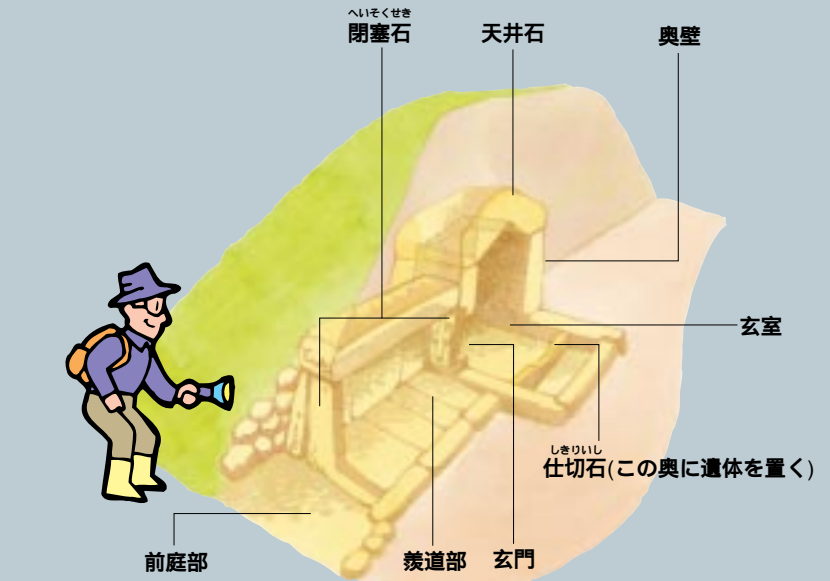
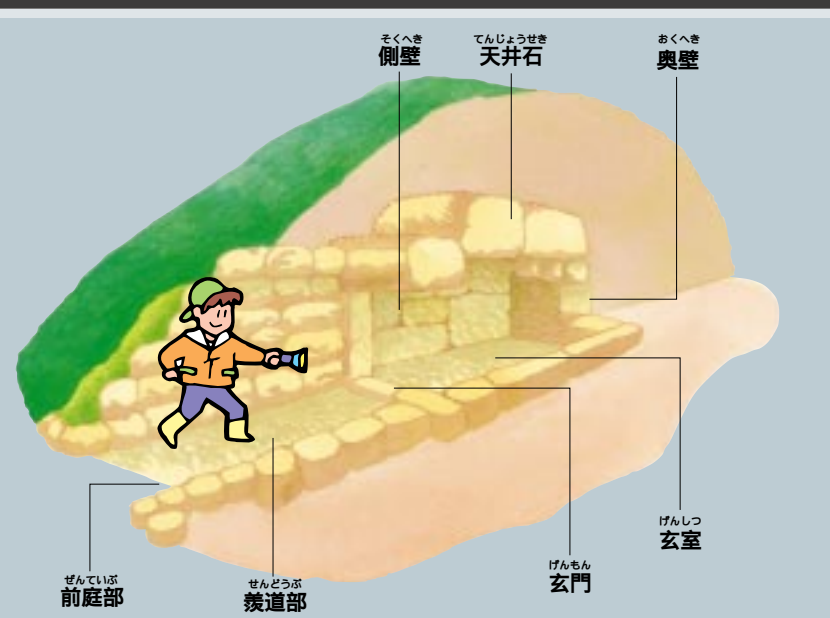
複数の石で壁を造るもの

石室式石室

横穴式石室の一種で、大きな切石で壁を造るもの

横穴墓

山の斜面を掘り込んで部屋を造るもの



前庭～羨道(入口と通路)



玄室側から見た羨道。狭い羨道と壁の石が小さいのは、古い石室の特徴。
(薄井原古墳:松江市坂本町)



新しいものは羨道の幅が広い。
(片山古墳:浜田市下府町)

玄門(室の入口)



四つの大きな石で、まさに「門」を造った例。
(大念寺古墳:出雲市今市町)



両側に立った石が袖石。片方だけのものや、まったくないものもある。
(放れ山古墳:出雲市古志町)

玄室(主の眠る室)



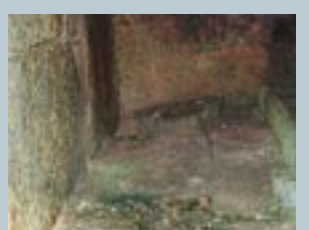
奥壁が一枚、他の壁はレンガのように加工した石をうまく積んでいる。
(塚山古墳:出雲市今市町)



内部に石棺を持つものもあるが、これは珍しく石のベッドを持つ例。
(放れ山古墳)



すべての壁が小さめの石を積んで、傾けながら造られた例。
(鶏ノ鼻古墳群:益田市遠田)



内部に石棺を持つものもあるが、これは珍しく石のベッドを持つ例。
(放れ山古墳)



天井は家の屋根の形に表現されているものが多い。
(岩屋後古墳:松江市大草町)



玄室内に石棺を入れた珍しい例。石は地元のものではないようだ。
(太田2号墳)



玄室は1-3畳くらいの広さで、壁は平らに加工されている。
(朝酌岩屋古墳)



床に仕切りの石が立っているものもあり、この奥に遺体を入れていた。
(古天神古墳:松江市大草町)



玄門をふさぐ石が残っていた珍しい例。「かんぬき」が表現されている。
(伊賀見1号墳:穴道町白石)



玄門は石をくり貫いて造られている。羨道部は失われている。
(太田3号墳:松江市東持田町)



古いものは幅が狭い。この古墳では羨道の手前でもふさがれている。
(朝酌岩屋古墳:松江市朝酌町)



床は埋まっているが、玄室と同様、石が敷かれていることが多い。
(太田2号墳:松江市東持田町)

家形石棺を調べる

横穴式石室の中に見られる家形石棺は、くり抜き式(一個の石を彫り込んで作る)が多いのですが、横穴墓にはいろいろなものがあり、ほとんどが組み合わせ式(複数の石で積み立てる)のものです。

蓋石: 外側は屋根の形をし、「縄掛突起」と呼ばれるコブが造り出されていることもある。



横口: 出雲の家形石棺は横に入口が付いているものが多い。

コラム

横穴墓と横穴式石室

横穴式石室にはそれを覆った墳丘があり、まさに古墳と言えませんが、横穴墓にはこれまで墳丘はないものと理解されてきました。しかし最近の調査で墳丘を持つものが見つかったり、背後の山全体に段をめぐらすなど、横穴式石室との共通点があることがわかってきました。

両者の墓穴の構造が似ていることは早くから指摘されてきましたが、最近では変化の様子にも共通点が見られることから、これらを考えてみることは益々多くなってきています。また、一見して横穴墓のほつが異なる感じがしますが、中から出てくるものに極端な差はなく、どちらの墓を通るかは極めて政治的なものであるという説も有力です。

ところで横穴式石室は大半が後世に荒らされているため、内部に遺物が残るものはまれです。これに対して横穴墓は、新しく発見されるものが多く、調査・研究が進むにつれ、石室で得られない多くの情報が集まっています。

調査中の島田3号穴(東出雲町出雲郷)



天井が家形に造られた例。
(上塩治横穴墓群:出雲市上塩治町)



家形だが奥壁はまっすぐ立っており、切妻の屋根になる例。
(北方横穴墓群)



天井が平たく造られた例。
(北方横穴墓群:五箇村北方)



家形石棺やベッドを持つものも多く、これは仕切りの石が造り出された例。
(安部谷横穴墓群)



閉塞石を受けるくり込みが付いた例。石室式石室とよく似ている。
(安部谷横穴墓群)



閉塞石が残っていた例。
(楡ノ木横穴墓群:仁摩町天河内)



横穴墓には羨道がないものも多く、前庭部がそのかわりに発達する。
(鳥田池遺跡:東出雲町損屋)



新しいものは前庭部が広がる。(安部谷横穴墓群:松江市大草町)

訪ねてみよう

主への贈り物



横穴墓の入口に置かれた土器想像図

① 遺物の見方

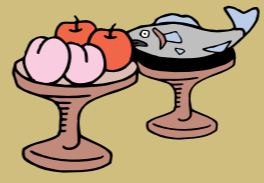
古墳から出土する遺物には、いろいろな物があります。「これは主(お墓)に納められていた」「副葬品と呼ばれる遺物の当時の使われ方について」の見方を紹介します。



主への贈り物?
主の頭部があった位置を中心に、よく出土する遺物があります。おそろしく生前から身に付けていたと考えられるアクセサリー類で、勾玉(まがたま)などのネックレスや、櫛(くし)、耳飾りと書(かみ)えられる耳環(みみかみ)、珍しいものとしては、鋼(こ)と呼ばれる腕輪(うでわ)や、金の冠(かんむり)があります。



葬式の道具?
墓穴の上や入口から出土する遺物は、食事をするための土器類(はがけ)が中心となります。葬式(むすび)のときの道具として使われたものでしょうか、また、横穴式石室(よこあな)や横穴墓(よこあな)にはたくさん出土すると思われる土器類(はがけ)が入れられていますが、「これは贈り物として埋められた土器類(はがけ)かもしれません」。



いつでも見られる遺物

古墳からはいろいろなものが出土しますが、横穴(よこあな)の上の方まで掘られていた埴輪(はなびら)もその一つですが、みなさんがいちばん興味のある物は、やはり棺(くわん)の中(うち)に納められた品々(しんぱん)でしょう。

【八雲立つ風土記の丘資料館】

県内でもっとも多くの遺物を展示しており、有名な古墳の出土品も見ることが出来ます。日本中をあとと言われた、文字の書かれた刀(やちま) (岡田山1号墳出土)や、「卑弥呼(ひみこ)の鏡」として騒がれた銅鏡(かね) (神原神社古墳出土)も展示されています。復元された土器(かわらけ)や埴輪(はなびら)も多く、「見返りの鹿」はその完成度の高さ(たか)に、思わず立ち止まって見入ってしまいます。古墳出土(こふんしゅ)以外の考古資料(こくうざりょう)も多く、また周辺には有名な古墳(こふん)がたくさんあります。



「この丘が」歴史民俗資料館(ここのかた)などがある市町村(しやまち)の学校(がっこう)や公民館(くみんかんと)の場合もありません(まへ)。また、地元(ちもと)で出土した遺物(いしつ)を見ることが出来ます。

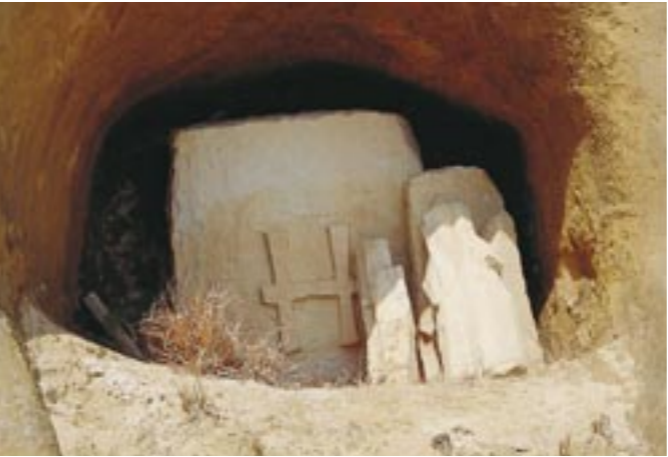
【島根県埋蔵文化財調査センター】

県の発掘調査(はつくつかさ)の基地(きち)にあり、あちこちの遺跡(いせき)で出土(しゅつど)した遺物(いぶつ)は、ここで整理(せいり)されています。小さいながら展示室(しやうし)を備え(そな)えてあります。発見されたばかり(ばかり)の遺物(いぶつ)や写真(しやしん)を見ることが出来ます。近くには古墳公園(こふんこうえん)もあり、入門コース(にゅうもんこうす)としては最適(さいてき)です。



現場で見る遺物

島根県埋蔵文化財調査センター(しまねけんうりざうぶんくわいざさ)や、市町村(しやまち)の教育委員会(きょういく委員会)では、毎年(まいねん)どこかで古墳(こふん)の発掘調査(はつくつかさ)を行っています。調査(たさ)の様子(ようす)は遺跡説明会(いせきせつめいかい)という形で一般(いぱん)に公開(こうかい)されていますので、ぜひ参加(せいか)してみてください。古墳(こふん)から剣(けん)や玉(たま)などの遺物(いぶつ)を、実際に(じつじ)出てきたまま(まま)の状態(じょうたい)で見ることが出来るのは、この機会(きかい)だけです。わからないこと(こと)は、質問(しつもん)すると説明係(せつめい係)が答(こた)えてくれます。また、家の跡(あと)や土器(かわらけ)を焼く窯(かま)など、古墳(こふん)以外の珍しい(めづらしい)ものが公開(こうかい)されることもあります。遺跡説明会(いせきせつめいかい)が行われる日時(じつ)や場所(ばしょ)については、テレビや新聞(しんぶん)などでお知らせ(おしらせ)しています。



北小原横穴墓(きたこはらよこあな) (松江市西浜佐陀町)



配られたパンフレットを見ながら、発掘調査員(はつくつかさ)の説明(せつめい)を聞く。

② 残るもの、残らないもの

古墳(こふん)から出土(しゅつど)したものは、一〇〇〇年以上(いちじゅうにほんねん)の年月(としづか)により、ほとんど(ほとんど)が傷(やけど)んでいたり、朽(く)ち果(くちぐ)てたりしています。われわれが現在(いま)見ることが出来る(みることが出来る)のは石(いし)や金属(くわんじゆ)製品(せいひん)がほとんど(ほとんど)で、着(き)ていた服(ふく)や、刀(やちま)の鞘(さや)など、布(ぬい)や木(き)で作(つく)られていたもの(もの)が残(のこ)ることはまれ(まれ)です。金属(くわんじゆ)の場合(ばい)はさび(さび)てしまう(しまう)ことが多く(おおい)、金(かね)メッキ(めっき)されたもの(もの)だけが腐(くさ)を残(のこ)っています。

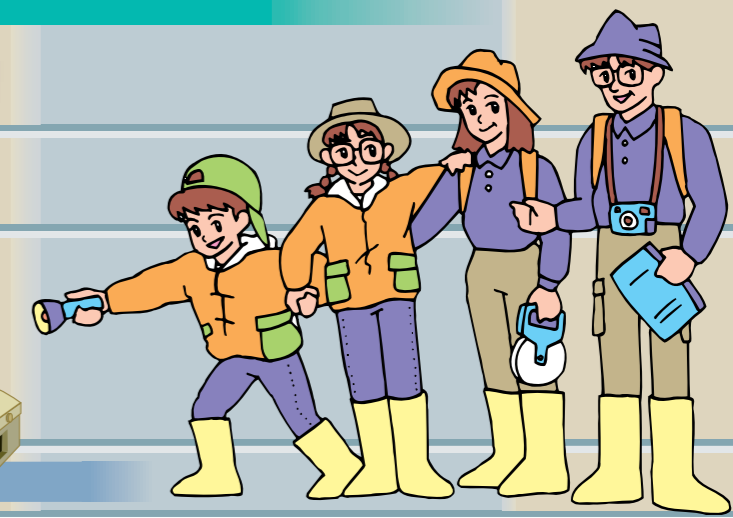
当時(たうじ)のおもかげ(おもかげ)を残(のこ)す遺物(いぶつ)は少ない(すくな)いですが、それ(それ)でも(でも)くわすかな手(て)がかり(がかり)や埴輪(はなびら)の形(かたち)など(など)から、積極(じっごく)的な復元(ふくげん)が試(し)み(み)られています。教科書(けいこくしょ)や図鑑(ずかん)などでよく見(み)かける(かける)「想像(そうぞう)図(ず)」「古代(こたい)人の衣装(いしやう)や道具(どうぐ)は全(ぜん)くの作り話(つくりはなし)とい(い)うわけ(わけ)ではありません(ではありません)」。



一目でわかる、古墳の見方・調べ方一覧表

島根県の古墳に限ります

時代・世紀	弥生時代 3世紀	古墳時代前期 4世紀	中期 5世紀	後期 6世紀	終末期 7世紀	奈良時代 8世紀
古墳のある場所	丘陵上 	平野 		丘陵斜面 	谷奥の斜面 	
墳丘の形	四隅突出型墳丘墓 	前方後方墳 前方後円墳 円墳 	方墳 県内では最初は方墳が前方後方墳			
葺石 はにわ 埴輪	特殊な埴輪 	円筒形埴輪 	人物埴輪 	県内では葺石の見えるものは少ない		
タテ穴の石室	とても長い石室 		短い石室 			
タテ穴の石棺	箱式石棺 	長持形石棺 舟形石棺 			家形石棺 	
ヨコ穴の石棺						
ヨコ穴の石室 横穴墓		九州ではこのころすでに	横穴式石室が造られている	南に入口を向ける ドーム形天井	切石造りの石室 家形天井	小型化
副葬品	銅鏡 鉄剣 	だんだん長くなる		大刀 須恵器 	飾りのついた大刀 須恵器の種類、数とも多くなる	数が少なくなる
あてはまる古墳 見つけた古墳はどこに入るかな?	松本3号墳 (三刀屋町)	大元1号墳 (益田市)	周布古墳 (浜田市)	古曾志大谷1号墳 (松江市)	水若酢神社 古墳 (五箇村) 大念寺古墳 (出雲市)	片山古墳 (浜田市) 若塚古墳 (安来市)



島根県内の古墳を採検する



1. 崖や狩猟許可地域、道のない山などの危険な場所へは行かないようにしましょう。
2. 民家の近くや、畑の中などにある古墳の場合は、断ってから見学しましょう。
3. 子供だけでは行かないようにしてください。また、行き先は家族に知らせておきましょう。
4. 古墳を傷ついたり、見つけた土器や埴輪などを勝手に持ち帰らないようにしてください。(地元の教育委員会に届けるのがよいです。)
5. いろいろな古墳を知って、郷土の歴史への興味を深めるためにも、見学した古墳を記録することをすすめます。

ここからは、県内の古墳の中から選んだ七六カ所の古墳を紹介いたします。なるべくわかりやすいものを紹介するつもりでしたが、エリアによっては有名なものであてはまらなかった古墳もあります。県内の全域をカバーしたつもりですが、古墳の分布に濃淡があるために、紹介できなかった地域もあることをお断わりしておきます。なお、紹介できなかった古墳については、遺跡地図や地元の市町村史誌(※)などで調べることがあります。

古墳ガイドマークの見方

墳丘	前方後円墳	前方後方墳	円墳	方墳	各種	四隅突出型	墳形不明	墳丘なし
墳丘の形をあらわします								
埋葬施設	縦穴式石室	横穴式石室	石棺式石室	横穴墓	舟形石棺	箱式石棺	木棺	各種
棺や室をあらわします								
外表施設	埴輪	墓石	墓石・埴輪	不明				
墳丘の表面にあらわします								
時期	(例)	4世紀	6世紀後半	7世紀前半	4世紀～5世紀			
古墳の造られた時期をあらわします		4	6後	7前	4～5			

古墳名の下に(県・市・町・村)指定とあるものは、それぞれの指定史跡であることを意味します。

古墳なごびもくへんぎんぐ

県内にはさまざまな古墳があることが、おわかりいただけたでしょうか。ここでは県内の古墳を意外な視点から順位付けしてみました。登場する古墳は代表的なものを挙げましたが、これ以外にもたくさんあります。また、ランクによっては意見の分かれるものがあったり、見直しが必要なものもあることをお断わりしておきます。

立地編

- 1位 最東端にある古墳 布施横穴墓(布施村)
- 2位 最西端にある古墳 鍛冶原古墳群(津和野町)
- 3位 最南端にある古墳 林古墳群(六日市町)
- 4位 最北端にある古墳 北谷古墳(西郷町)
- 5位 高い所にある古墳
- 6位 低い所にある古墳

大きさ編

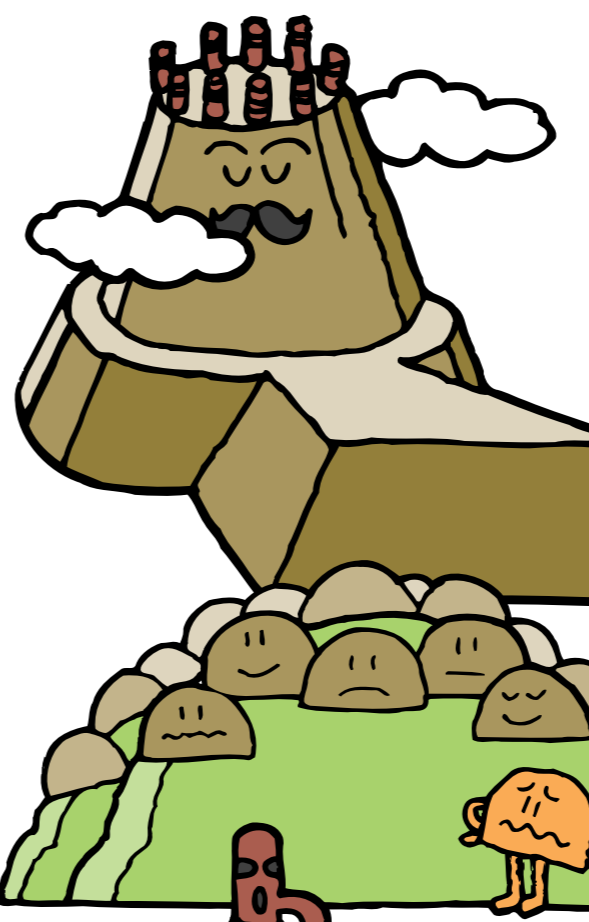
- 1位 大きな墳丘を持つ古墳 推定92m 大念寺古墳(前方後円墳・出雲市)・山代二子塚古墳(前方後円墳・松江市)
- 2位 89m 大元1号墳(前方後円墳・益田市)
- 3位 89m 大元1号墳(前方後円墳・益田市)

古墳群編

- 1位 数の多い古墳群(横穴墓を除く) 矢田古墳群(安来市)
- 2位 64基以上 東百塚山古墳群(松江市)
- 3位 50基以上 鶴ノ鼻古墳群(益田市)

横穴墓編

- 1位 鏡が多数出土した古墳 鏡が多数出土した古墳
- 2位 3枚 造山1号墳(安来市)
- 3位 2枚 奥才14号墳(鹿島町)



エリア1 安来市・能義郡

中海にそそぐ伯太川と飯梨川流域は、県内で最も古墳が集中する地域のひとつです。この2つを注目しておきたいのは、飯梨川を境にして西と東では古墳の様子が異なっているという事実です。四世紀の古墳は、川の西側の荒島地区に造山1号墳などの大きな方墳が見られるのに対して、東では小さなものしか見られませんが、東では前方後方墳はほとんど見られず、二〇〜三〇メートルの小さな前方後方墳が多数見つかっています。六世紀後半以降は、西で石棺式石室などの横穴式石室と横穴墓が造られるのに対し、東では県境にある神代塚古墳を除いて、西のものと同じく似た横穴墓だけが見られます。



1 日向峰古墳群

この高いところにもある

多 5?



2 森木峰古墳群

能義郡伯太町赤屋 横屋 (上の台緑の村)

公園の入口をはいり奥へ進むと、日向峰古墳群の標柱が見つかります。そこには全長一〜一三メートルの県内でも最小クラスの前方後円墳(写真左上)があり、標高も三〇メートル以上と、県内でもかなり高い場所にある古墳といえます。森木峰古墳群は公園入口の右手斜面にあり、ここにも標柱が立っており、横穴式石室が露出していますが、天井石は玄室の部分だけ残っており、内部も土砂でほぼ完全に埋まっています。二つの古墳の間や周囲には、一〇メートル前後の小さな古墳が五〜七基ほどあるようですが、道によって半分はなくなつたものもあり、はっきりはわかつていません。公園に来たときに、ついでに見てほしい古墳群です。上の台にはこのほかにも多くの古墳が見つかっていますが、古墳を造るには普通では考えられない高所であるため、何か特別な理由があるのかもしれない。

3 佐々彦神社裏古墳群

落ち葉の季節に

多 5?



足立美術館北西の山際、佐々彦神社裏の丘陵上にあります。前方後円墳二基と、その間に円墳、あるいは方墳が三基確認できています。北端の前方後円墳は、群中最大で長さ約三〇メートル、高さは約三メートルあります(写真)。斜面には横穴墓も存在します。草木が茂つていますが、晩秋〜初春が見学しやすいでしょう。

4 王陵の丘造山古墳群(国・県指定)

県内最古の古墳群

多 4~5



JR荒島駅の南西の丘陵上にある古墳群で、最近公園として整備されました。県内最古の古墳の一つと考えられる造山1号墳、同3号墳、五世紀の前方後方墳である同2号墳など、五〇メートル前後の大規模古墳が集中し、まさに「王陵の丘」にふさわしい古墳群です。国道九号線からもよく見えます。説明板あり。

5 毘売塚古墳 県指定

伝説を持つ古墳

JR安来駅南東の丘陵頂上にある、全長約四〇メートルの前方後円墳。一九六六年に調査され、舟形石棺内部に人骨が残っていました。石棺は現在埋め戻され、石碑が立っています。石段が途中で急になっていて、部分部分が古墳の裾に当たります。この古墳にまつわる伝説は第五巻『出雲風土記』を歩くにあります。



6 矢田古墳群 市指定

見所たくさん、行くのはつらい



古墳群はいくつかのグループに分かれており、それぞれ名前が付いていますが、ここでは矢田古墳群として紹介します。県内では数少ない縦穴式石室や、石棺を持つ横穴墓を見ることができ、古墳研究者には名の知れた古墳群です。南側の縦穴式石室を持つ古墳から北に七〇メートルほど尾根上を歩くと、家形石棺(写真)を持つ横穴墓群があります。途中は古墳だらけで、埴輪や土器も見つけることができます。非常に見所が多い古墳群ですが、道がないに等しい所にあるので、慣れない人にはおすすりません。

エリア2 島根半島

島根半島を外海(日本海)に面する側と内海(宍道湖・中海)側に分けてみると、四世紀ごろの古い古墳は島根町を除いてほとんどが内海側にあります。しかし六世紀後半以降の横穴式石室や横穴墓は各地に多数見られ、現在漁港となつている地域にも必ずと



いつてよいぼや存在します(大社町にほとんどの古墳が見られない点はナンです)。こうした外海側の小地域の古墳は、まだ十分な調査ができていませんが、一つひとつの古墳が古墳時代以降に対応していたのかという重要な問題を解決するうえで、欠かせないものと見えています。

1 海崎古墳群

美保関小学校東から軽尾港へ抜ける峠の道路脇にある古墳群です。西側の三号墳は横穴式石室で、玄室前側の天井石がはらずされており、そこから中にはいることができます。一号墳は天井石がはらずに中が見えますが、縦穴式石室と箱式石棺の両方の特徴を持った珍しい石室です。峠にあるので、どちら側の人たちが造つたのか気になります。



2 方結神社裏古墳
八束郡美保岡町片江



神社の裏山に登ってすぐの所に、大きな板石が立っています。この石は箱式石棺のふた石と考えられ、その脇の地面に四角く立て並べられた石があります。これが棺身ですが、かなり埋まっているので注意して探してください。五世紀ごろの古墳と考えられますが、墳丘の形や出土品はよくわかりません。



3 牛谷古墳
八束郡島根町加賀



加賀港を見下ろす小山の山腹にある古墳で、二つの箱式石棺が並んでいます。一つはふた石が外されていて、棺身の丁寧な造りがよくわかります。もう一つはふた石が残っており、コブ状の縄掛突起(写真)が四個ついているので注意して探してください。非常に珍しいものです。ひょっとすると、古墳時代にこの港を管理していた人の墓かもしれません。



4 畑道路際古墳群
平田市小境町



畑薬師へ上がる道路の、最初のヘアピンカーブ脇にある二基の古墳です。以前発掘調査が行われており、東側の古墳からは形象埴輪が出土しています。西側の古墳は墳丘が半分近く道路によって削られました。ふた石がはずされた箱式石棺が残っています。カーブ脇の空き地に車を駐車して、手軽に見ることができます。



5 講武岩屋古墳
八束郡鹿島町北講武



天井は屋根の形。果樹園の中にあり、切石造りの横穴式石室がほぼ完全に露出しています。残っているのは玄室のみで、羨道の石材らしきものが散乱しています。墳丘の盛土はほとんど残っていませんが、石室の形や、入口が南を向いていること、斜面に造られていることから、古墳時代終末期のものであると考えられます。また、付近で勾玉が採取されています。



6 大寺古墳群 市指定
出雲市東林木町



一号墳は大寺薬師の裏山に築かれた前方後円墳で、古墳からは出雲平野が一望できます。全長五〇メートルで、後円部の山側には溝を巡らし、墳丘には葺石(写真)が見られます。現在埋め戻されていますが、後円部中央に小さな横穴式石室があります。東側には横穴式石室を持つ二号墳があります。



7 山根垣古墳
平田市西郷町



平田市街地から十六島に向かう途中、東側丘陵に築かれた方墳で、墳丘は一辺一〇メートル、高さ一メートルほどあります。内部にある横穴式石室は、平面が奥に長い長方形の両袖式で、割石と切石を使用しています。出雲市の横穴式石室、とくに上塩冶築山古墳とよく似ています。出土品は、須恵器片と金環が知られています。



8 山崎古墳
平田市東福町



水田から数メートルの丘陵の先端にあり、出雲西部には珍しい石棺式石室を持つ古墳です。入口は土で埋まっていますが、奥の壁がこわされており、そこから中にはいることができます。玄室は平面が一辺一・九メートルの正方形で、各壁とも一枚石を使用しています。平田市の石棺式石室は、奥屋敷古墳ほか三基のみです。



エリア3 松江市とその周辺

この地域は県内でもっとも古墳が集中し、かつ大型古墳も多数見られます。初期の古墳には大きなものはなく、五世紀になって突然、大橋川南岸を中心に五〇メートル前後の前方後円墳や前方後方墳、方墳が現れます。また一〇メートル前後の小さな古墳も多数見られ、大草町の東・西百塚山古墳群では一〇〇基以上が密集して造られています。

六世紀後半以降は横穴式石室・横穴墓が多数造られ、石棺式石室もここで発生、発展します。のちの奈良時代に出雲国の国府が置かれる大草町と山代町は古墳文化の中心地といえ、有名な古墳も多くあります。また意外に知られていないのが、橋本の東持田町の周辺で、石棺式石室が七基もあり、注目されます。



1 朝酌小学校校庭古墳
松江市朝酌町



朝酌公民館の北にある運動場(もとの朝酌小学校の校庭)脇にある古墳で、小型の石棺式石室が開いています。石室は羨道部分が失われていますが、玄室はよく残っています。石材は白い石で、加工時のノミの跡がよく見えます。また、ここから南へ三〇メートルの所に、大型の石棺式石室を持つ朝酌岩屋古墳があります。



2 栗坪1号墳
八束郡東出雲町須田



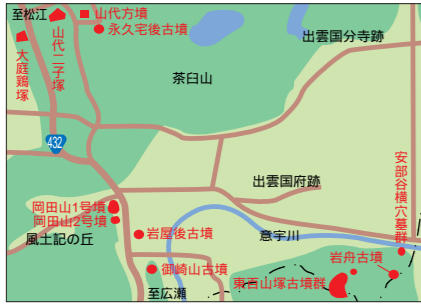
谷奥の南向き斜面にある方墳で、石棺式石室が開いています。墳丘は二段で、下から見上げると大きく見えるように造られています。石室は羨道部の天井石は残っていませんが、ほかにはよく残っています。玄室の天井内面に屋根の形が線刻されており、最近調査された松江市大庭町の向山一号墳によく似ています。



3 風土記の丘周辺 国県指定
松江市大草町



鳥根県を代表する、有名な古墳が集中する地域です。県内最大の前方後方墳である山代一子塚や、文字の刻まれた大刀が出土した岡田山一号墳、最大クラスの石棺式石室を持つ岩屋後古墳などがあります。また大草古墳群はハイキングコースとしておすすめです。その見どころの多さは、一日でまわりきれないほどです。(写真は岩舟古墳)



4 乃木二子塚古墳 県指定
松江市上乃木町

町中の前方後方墳
国道九号（松江道路）沿いにある全長約四〇メートルの古墳です。現在は住宅団地となりわかりにくくなっていますが、もとは低い丘陵の先端にあたる見晴らしのよい場所にありました。一九八一年に一部調査され、須恵器などが出土し、その特徴から六世紀前半ごろに造られた古墳と考えられています。説明板あり。



5 薄井原古墳 県指定
松江市坂本町

古い横穴式石室
全長五〇メートルの前方後方墳で、横穴式石室二基を持つています。石室の壁は小さな自然石をつまく積んで造られており、入口は片側に寄せて付けられています。内部には石棺もあり、その形は石室と同様、近畿地方の古墳によく似ています。一九六一年に調査され、出土品から県内最古級の横穴式石室であることがわかっています。



6 太田古墳群
松江市東持田町

石棺式石室が集中
石棺式石室が五基も集中しているのは、ここ松江市の山代・大草町だけです。この太田古墳群は、いずれも墳丘の残りが比較的良好ですが、石室は比較的よく残っています。五基のうち、安来の荒島石を使用しているものが二基あります。二号墳は内部に石棺を持つもので、大庭町の向山一号墳にそっくりです。



7 運動公園内古墳群
松江市浜乃木町

典型的な小古墳群
松江市の運動公園の入口西側に、緑地帯が残されています。この丘陵の上を歩くと所々に一〇メートルくらいのラフタのコブのような高まりが見えます。下草がほとんどないのでわかりやすいです。五世紀の古墳と推定されています。現在は地形が大きく変わってしまいましたが、このあたりはたくさん古墳が調査されたところです。



1 玉造築山古墳 県指定
八束郡玉湯町玉造

一つの古墳に二つの舟形石棺
温泉街の西側にあり、一つの古墳に二つの舟形石棺を持つという珍しい古墳です。四つの縄掛突起がついた石棺は、同町の徳連場古墳と同様、地元で「白粉石」といわれる真っ白でやわらかい石を使っています。徳連場古墳よりも丸みがある点は、やや新しい特徴と考えられています。



2 徳連場古墳 国指定
八束郡玉湯町玉造

道端の古墳
玉造資料館の北側にある古墳です。墳丘頂部には舟形石棺があり、玉造築山古墳と同じ白粉石でいねいに造られたものです。この石棺は扁平な長方形で、周囲には縄を掛けるための突起が六つあります。玉湯町周辺は舟形石棺が多いのが特徴で、資料館と合わせて見学するとよいでしょう。



3 出西小丸古墳
簸川郡斐川町出西

ていねいに造られた石室
栖雲寺西側にある墓地の横にある古墳ですが、墳丘の形はよくわかりません。横穴式石室は玄室が奥に長いタイプで、玄門は柱状の石を立て、前面に閉塞石を入れるための段があります。入口の前に立てかけられ閉塞石は、昔におおわれていますが、「かんぬき」を表現した浮き彫りが見えます。須恵器の子持壺、大刀片が出土しています。



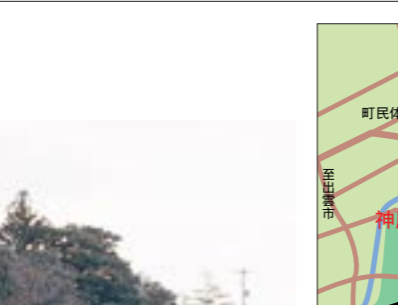
4 小丸子山古墳
簸川郡斐川町学頭

斐川町最大の円墳
水田の中にボツンと築かれた径三五メートル、高さ五メートルの円墳です。墳丘は高く、二段築成です。主体部は現在不明ですが、伝承によると小石を敷き詰めた礎床だったといわれています。斐川町最大の円墳で、周囲にある神庭岩船山古墳などとともに、この地域を治めていた人の墓と思われる。



5 神庭岩船山古墳 県指定
簸川郡斐川町神庭

斐川町最大の前方後円墳
庄原小学校の校庭脇にある復元長四八メートル、高さ五メートルの前方後円墳で、前方部がすこし削られています。周囲を歩く古墳の形がよくわかります。後円部の上には砂岩で造られた舟形石棺のふた石の破片が残っています。復元すると長さ二・七メートル、幅一メートルの大きさで、縄掛突起が六つ付いていることがわかります。現在は道になっている古墳の南側は、もともと台地を堀状に切り離したようすがつかえ、堀を造った際の土砂を盛って墳丘を造っていたと推定されます。現在はほとんど見ることはできませんが、墳丘からは埴輪の破片が見つかっています。



エリア4 宍道湖南岸
この地域には四世紀の古墳はあまり見つかっていませんが、五世紀以降はたくさん古墳が造られています。とくに集中するのは玉湯町周辺で、前方後円墳が目立つのも特徴です。ここでは古墳時代に花仙山で採れる碧玉が玉作りが盛んに行われており（詳しくは二巻を参照）、この事実と関係づけられています。また、このあたりで採れる来待石を材料として、多くの石棺・石室が造られており、詳しくは二巻を参照（一部は宍道湖北岸にまで運ばれています）。斐川町の横穴式石室は松江市と出雲市の古墳の両方の影響が見られ、この地域の当時の立場を反映しているのかもしれませんが。



6 伊賀見1号墳

八束郡穴道町巨石



穴道町最古の横穴式石室
丘陵上にあり、古墳からは穴道湖を見下ろすことができます。全長二五メートルの前方後方墳と推定され、長さ六メートルの横穴式石室（石棺式石室）が開口しています。一九五八年に調査されるまで未開口でしたが、現在は天井石がなく、石室を上から見る事ができます。玄室は正方形で、中央に通路と屍床（死者を置くベッド）を区切る仕切りがあります。壁はほとんど一枚の切石で作られており、よく見ると工具痕が残っています。入口には閉塞用の石（写真）がそのまま残っており、正面から見ると「かんぬき」の浮き彫りがわかります。出土品から六世紀後半ごろの古墳であることがわかっています。

7 推山古墳群 県指定

八束郡穴道町巨石



穴道町最大の前方後円墳
公園になった古墳群
水溜古墳群
前方後円墳の一号墳をはじめ三基の方墳の計四基からなり、一号墳は丘陵の傾斜地に位置し、全長三五メートル、高さ三・五メートルです。墳丘の残りはよく、裾まわりを歩けば形がわかります。古墳のまわりには周濠（堀）状の平坦面があり、墳丘からは埴輪や甕石も見つけることができます。

8 水溜古墳群

八束郡穴道町巨石



前方後円墳一基、円墳一三基、方墳一六基の計三〇基もあり、現在、穴道総合公園（古墳の森）として保存、整備されています。公園内には、全国の大墳の大きさと島根県の古墳の大きさを比較した野外展示施設もあり、古墳を見て実感できる場所です。五号墳は二五メートルもある穴道町最大の方墳で、埴輪も出土しています。

エリア5 出雲市とその周辺

松江市につく古墳密集地で、この地域の特徴は、四〜六世紀前半の古墳が少ないのに対し、六世紀後半以降になると、突然多くの古墳が造られている点です。県内最大の前方後円墳である大念寺古墳はその最初のもので、この古墳の築造のころに大きな社会的変化があったものと推定されています。

また、松江市にはたくさんある前方後方墳が、この地域にはまったくないのも特徴の一つで、横穴式石室も松江周辺より巨大なものも多く、形も異なり、九州の要素を取り入れながら、近畿地方の石室に似ている部分も見られます。しかし内部の家形石棺の構造や、石室と横穴墓が両方見られる点など、松江周辺と共通する点も多く、両者で出雲の後期古墳文化を形作っていたものと考えられます。



1 切石古墳

八束郡佐田町朝原

小さいが大きな意味が
墳丘は失われていますが、切石造りの小さな横穴式石室が残っています。石室の中は一人しか入れない広さで、一枚石をうまく組み合わせて造られています。遺物は知られていませんが、石室の特徴から七世紀の古墳と考えられ、当時の中央である近畿地方の石室の影響も見られることから、この地から中央へ向ういた人がいたのかもかもしれません。



2 宝塚古墳 国指定

出雲市下古志町

出雲西高校の東南側の水田の中にある古墳です。内部の横穴式石室は玄門が片側に寄り、片袖式で、中には大きな家形石棺（写真）があります。壁の石は切石を使用し、石がうまく組み合うように加工されています。奥の壁はとても大きな石一つで作られ、天井の石は大きな自然石をそのまま使っています。



3 刈山古墳群(小坂古墳) 県指定

出雲市馬木町

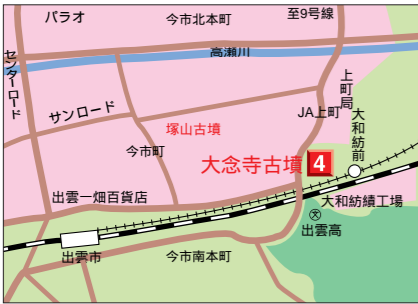
刈山古墳群は、前方後円墳を含む出雲市最大の古墳群で、その中に小坂古墳があります。熊野神社の駐車場から看板通りに進むと、切石でできた横穴式石室が見つかります。中には奈良時代の火葬骨を納めた石櫃が残っており、西日本では珍しい蔵手刀が出土しています。これらは奈良時代に古墳を再利用した証拠といえます。



4 大念寺古墳 国指定

出雲市今市町

全国最大級の家形石棺
出雲高校北側にある大念寺の裏山は、全長九二メートル以上の島根県最大の前方後円墳です。調査で、墳丘は異なる性質の土を交互に盛り、突き固めるという、当時の最先端技術で築かれたことがわかっています。全長一一・八メートルの巨大な横穴式石室の中には、日本一大きな家形石棺があります。（内部見学は市教委に連絡を）



5 上塩冶築山古墳 国指定

出雲市上塩冶町

石造技術の頂点
巨大な横穴式石室は全国に多数ありますが、この古墳の石室は大きさもさることながら、その精巧さは他に例を見ないもので、芸術品といってもよいくらいです。天井石以外は、凝灰岩の切石で巧みに組み立てられ、内部の二つの家形石棺とともに日本を代表する古墳です。出土品は出雲文化伝承館に展示。（内部見学は市教委に連絡を）



6 放れ山古墳 県指定

出雲市古志町

アーチ形の石室
レンガ状の切石をアーチ形に組み合わせた横穴式石室を持つ古墳です。床の左右には石のベッドがあり、そこに人が葬られていました。両袖式で、天井だけは大きな自然の石が使われています。ちなみに、天井だけを使っているかは、この地域の横穴式石室の変化を知る一つの手がかりになります。





1 神原神社古墳

県内最古の古墳
大原郡加茂町神原

一九七二年、斐伊川の支流である赤川の川幅拡幅工事に先立つ発掘調査で見つけられました。埋葬施設は割竹形木棺を納めた竪穴式石室で、内部から卑弥呼が中国の魏王朝からもたらされた「景初三年」銘のある「三角縁神獸鏡」をはじめとする数々の副葬品が発見され、全国的に名が知れました。この古墳は出土した土器から、県内でも最古の古墳と考えられており、その出現の背景を巡って議論が交わされています。

現在、竪穴式石室は神原神社脇に移され、復元されています。県内の竪穴式石室はほとんど見ることができないので、ここで見学するのはいいでしょう。

4前



2 岩屋古墳 町指定

整美な横穴式石室
仁多郡仁多町高田

巨石を使って造られた、横穴式石室があります。石室は玄室と羨道に分かれ、玄室は大きな一枚石を組んで造られています。石材は花崗岩の割石ですが、表面はきれいに整えられており、切り造りの横穴式石室を思わせます。付近にはのちの奈良時代に造営された高田廃寺があり、その関連も注目されます。

7前



3 松本古墳群 県指定

珍しい前期の前方後方墳
飯石郡三刀屋町給下

一九六二年に、松本一号墳の発掘調査が行われ、古墳時代前期の大形前方後方墳として早くから注目されている古墳群です。一号墳は、後方に粘土にくるまれた割竹形木棺を二つ安置したもので、その一つから中国製の鏡が発見されています。また三号墳は、近年の測量調査によって一号墳と同規模の前方後方墳であることが明らかになり、その形態から一号墳より古いものと考えられています。

出雲の平野部では古い前方後方墳や前方後方墳はほとんどありませんので、なぜここにもあるのか注目されます。このほか円墳や横穴式石室を持つ古墳もあり、おすすめの古墳群です。

多
木棺
4



4 長者原古墳 町指定

終末期の方墳
飯石郡赤来町下赤名

一辺一メートルのきれいな正方形をした方墳です。墳丘には二つ平坦面がまわっており、三段築成の形をとっています。発掘調査が行われていないので、わしいことは不明です。整った方墳であることから、古墳時代の終りころのものと推定されます。終末期の方墳は、出雲山間部では珍しいものです。

7



7 地藏山古墳 国指定

出雲西部最後の大型古墳
出雲市塩治町



出雲工業高校のグラウンドに行く道沿いにある古墳です。横穴式石室は壁・天井とも大きな一枚の石でできており、二つの部屋が造られています。奥の部屋に続く狭い入口をくぐると、中には口を開けた冢形石棺が横たわり、お地蔵様の部屋として再利用されています。その石棺の前には石で造られたベッドがあり、前の部屋とあわせて何人の人が葬られていたのか興味あるところです。

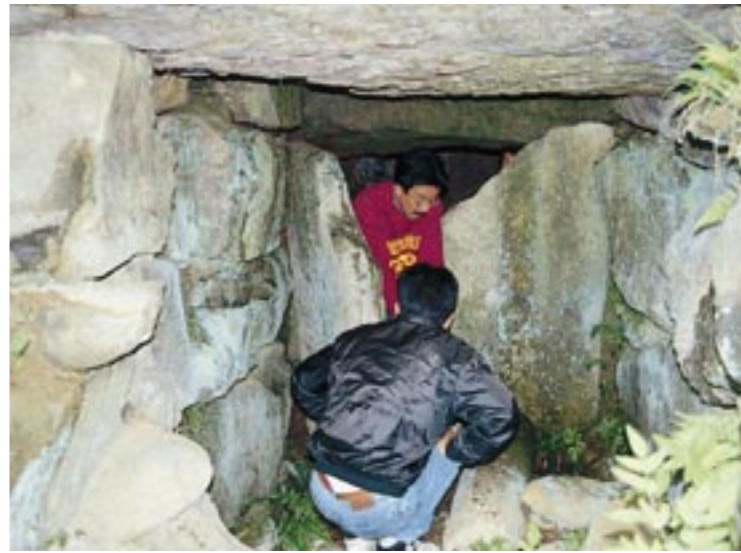
見所の多い石室ですが、出土品は知られておらず、造られた時期は石室の特徴から七世紀前半と推定されます。出雲市の古墳時代を語るうえで鍵となる古墳の一つです。

7前?



8 妙蓮寺山古墳 県指定

閉塞石の残る古墳
出雲市下古志町



妙蓮寺の西側の墓地近くにある全長五〇メートルの前方後円墳です。墓地を抜けて杉林を進むと標識が見つかり、この杉林の道が古墳のくびれ部にあたります。前方部は杉林の中にあるためよくわかりませんが、後円部には横穴式石室があり、入口には石の扉が二枚そのまま残っています。中に大きな冢形石棺が置かれ、全体として今市町の大念寺古墳に似ています。

見学に来た人が、石室の床からガラス小玉を見つけて教育委員会に届けたこともあるそうです。石室の隅々をじっくり捜すと、何か見つかるかもしれません。ここから出土した大刀から、最近になって象嵌（彫込み模様）が発見されています。

6後



エリア6 出雲

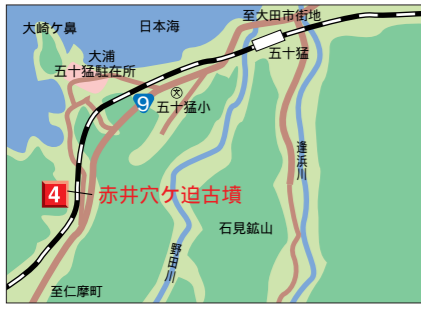
出雲の山並みを縫うように流れる斐伊川はその姿から出雲神話に登場するヤマタノオロチによくたとえられます。この中流域は、出雲の中でも早くから古墳が造られた所で、加茂町神原神社古墳・三刀屋町松本古墳群・木次町斐伊中山古墳群など割竹形木棺をもち、銅鏡を出土した前期古墳が知られています。なかでも「三角縁神獸鏡」が発見された神原神社古墳や、全長五〇メートル級の前方後方墳二基が相次いで造られた松本古墳群などが有名です。

その後、五世紀には自立した古墳は造られていませんが、六世紀後半からは横穴式石室や横穴墓が盛んに造られ、人物埴輪を多く出土した仁多町の常楽寺古墳、特異な石室を持つ無木古墳群など、独特の古墳文化があったようです。



旧波根湖の南にある丘陵頂上付近の東斜面に位置し、八基の横穴墓が開口しています。いずれも岩盤を掘り込んで造られており、玄室の天井は丸く、入口は精巧にできています。六世紀後半から七世紀ごろのものと思われる。石見の横穴墓は有名なものが少ないですが、この横穴墓は保存がよくおすすめです。

マニアも知らない？
3 大西大師山横穴墓群
大田市波根町



石見で唯一の切石石室。複雑に丘陵が入り組んだ谷奥の南斜面に位置します。墳丘は畑や道によって削られており、石見部では唯一の切石造りの横穴式石室が開口しています。羨道部の左壁と玄室のみが残っており、墳丘の形や出土遺物はわかりませんが、石室の特徴や立地などから、終末期の古墳と推定されます。

4 赤井穴ヶ迫古墳
大田市五十猛町



「中国太郎」とも呼ばれる江の川は、中国山地を貫流して日本海に注ぐ中国地方一の大河です。この川とその支流は山陰山陽を結ぶ交通路としてこの地域に多くの文化をもたらしました。全国で初めて発見された弥生時代の四隅突出型墳丘墓である瑞穂町の順庵原一号墓は、広島県山間部の同種のものとしてよく似ています。また、古墳時代前期に造られた石見町の中山古墳群では「方形板葺短甲」と呼ばれる鏡、後期に造られた羽須美村の野伏原古墳では「三累環頭大刀」と呼ばれるみとな刀が発見されています。これらの優れた品々が、江の川流域の交通路を通して入手されたものであろうことは確かでしょう。

エリア8 石見山間東部



大和村の石舞台。田んぼの中に、小さな祠が乗った大きな石がボツンと取り残されており、まさに奈良県の石舞台古墳を思わせる姿です。この古墳は調査されておらず、内部を見ることはできませんが、露出している天井石の大きさから見て、邑智郡内でも屈指の規模を持つ横穴式石室であることが予想されます。

1 土居原古墳
邑智郡大和村都賀西



江の川の支流である出羽川のほとりに築かれた古墳で、立つて歩けるほど大きい横穴式石室を持っています。石室の入口部分は埋まっていますが、須恵器のほか、「三累環頭大刀」と呼ばれる飾りのついた大刀が副葬されていたことがわかっています。これは県内では出土例がなく、山陰両県でも三本しか確認されていない貴重なものです。

2 野伏原古墳 村指定
邑智郡羽須美村雷田



神戸川のほとりに築かれた古墳で、中国山地一帯に多い細長い横穴式石室を持っています。石室は入口から奥壁までほぼ一直線につながっており、玄室と羨道の区別がない無袖式の形態をとっています。同種の石室が分布する、石見や山陽側との関係が考えられる古墳です。

5 比丘尼塚古墳 町指定
飯石郡朝原町八神



大田市から西は海岸部に小さな平野が連続し、古墳も各所で見られます。古い古墳もあるようですが、発掘調査されたものは意外と少なく、目立つのは横穴式石室と横穴墓など、六世紀後半以降のもの。仁摩町の明神古墳は、現在埋め戻されているため見ることはできませんが、全長一〇メートルの巨大な横穴式石室を持ち、内部には北陸地方のものに似た石棺があり、注目されます。この地域の横穴墓は大井が丸かたり、平坦であったりするものが多く、家形もわずかに見られ、全体として隠岐の横穴墓によく似ていますが、直接関係があるかどうか今のところ不明です。このほか、江津市の千田町には、横穴式石室を持つツツラヤン古墳をはじめ、四〇基以上の古墳が集中しており、注目されます。

エリア7 石見海岸東部



7

1 サンドミュージアム内古墳公園
通都 仁摩町天河内



砂時計が刻む古代の時間。世界最大の砂時計「有名なこの公園を造るときに調査された古墳を、古墳公園として整備、公開しています。この調査後そのまま残された古墳と、あとで復元された古墳があります。公園の山裾にある二つの横穴墓は本物で、入口をふさぐ石が残されています。山の上にはもともと公園西側の尾根上にあつた、安養寺古墳群の石棺などが模型として復元されています。それぞれの古墳に説明板も設置されており、休憩所としてもおすすめです。

なお、公園前の広場はもとは深い谷で、古墳は現在の見た目以上に高いところに築かれていた点は注意しておきましょう。



現状では径一五メートル以上の円墳に見え、墓石らしい石もありません。内部には横穴式石室があり、入口は埋まっていますが、天井石の隙間から玄室の中が見えます。石室の壁は一メートル前後の石を三段以上積んで造られ、全容は埋まっている部分があるためはつきりしませんが、玄室の大きさから石見では最大級の可能性があります。

2 行恒古墳
大田市久利町

石見最大級の横穴式石室



エリア9 石見海岸西部

石見は山国です。山は海岸に迫り、平地は多くありません。その中で高津川・益田川下流の益田市や、周布川下流の浜田市には大規模な前方後円墳が見られます。益田市の大元一号墳・スクモ塚古墳・小丸山古墳は、いずれも益田川東岸地域にある大型古墳です。三角縁神鏡を出土した四ツ塚古墳も知られており、古墳時代初期ころから、大豪族が次々と古墳を築いていたことがわかります。

浜田市の周布古墳は、石見中央部で最大の古墳です。これと同規模の古墳は周辺では知られておらず、益田川東岸地域とは異なる展開を示しています。

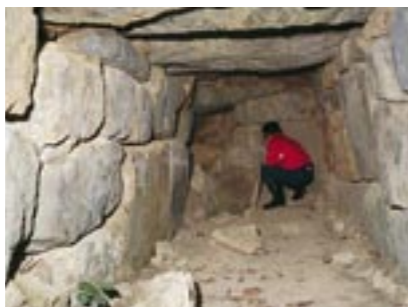
「おむすび見」の大型古墳は、古墳時代前半の四〜五世紀に最大規模のもので造られており、六世紀に最大の古墳が造られた出雲とは古墳文化の展開に際立った違いが見られます。



1 周布古墳 国指定

きれいな前方後円墳

石見中央部最大の前方後円墳で、復元すると全長七二メートルに及びます。墳丘は二段築成で、表面には菅石と円筒埴輪を備えています。発掘調査は行われていませんが、墳丘の形から五世紀のものと推定されます。なお周布古墳の東北には、めんぐる古墳があり、県内最古の横穴式石室と数々の副葬品が知られています。



2 片山古墳 市指定

明治時代、英国人が測量

奈良時代に石見国府が置かれたとされる、浜田市下府町の平野を見下ろす斜面にあります。横穴式石室は羨道と玄室の区別がない形態をとり、切石造りと思われる終末期のもので、明治時代に英国人ガウランドにより測量が行われています。古墳の南西には奈良時代の下府廃寺があり、その関連も注目されています。



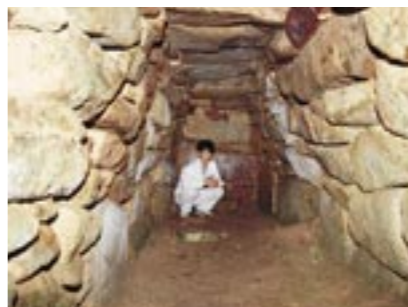
3 鶏ノ鼻古墳群 県指定

石見最大級の群集墳



日本海に突出した標高四〇メートルあまりの台地上に、横穴式石室を持った小さな古墳が多数造られています。もとは五〇基以上はあったとされていますが、開発により消滅したのもも多く、その一部が現在保存されています。

石室は、細長い玄室に羨道が片側に寄せてつく、片袖式の平面形をとっているものが大半で、奥壁上部には側壁と奥壁に石を三角形に架け渡した「三角持送り」という特徴的な構造を持つものもあります。出土品の多くはすでに失われていますが、わずかに伝わるものの中には、「単龍環頭大刀」のような優品も含まれています。



3 順庵原1号墓 県指定

初めて発見された四隅突出型墳丘墓

一九六九年、国道二二一号線工事に伴う発掘調査を行っていた門脇俊彦氏(故人)は、四隅が突出した異様な形をしたお墓を見つけた。これが山陰を中心に弥生時代後期に盛んに造られた墳墓「四隅突出型墳丘墓」の発見です。埋葬施設は箱式石棺を中心に三基確認され、突出部が小さいのが特徴です。

4 割田古墳 県指定

中国山地に多い無袖式横穴式石室

一九六九年に、田んぼの整備に伴い調査された古墳です。中国山地に分布する横穴式石室は、入口から奥壁まで直線的につながった無袖式の石室が多いのが特徴ですが、この古墳はその典型例と言えます。県指定史跡として、保存されているので、中国山地の「無袖式横穴式石室」の様子をよく見ることが出来ます。

5 中山古墳群 県指定

石見最大級の古墳群

石見地方山間部では珍しく、総数八〇数基からなる古墳群です。一九七七年の発掘調査では全国的にも類例が少ない「方形板葺短甲」を出土した前方後方墳をはじめ、石棺や木棺などが多数発見されています。これらの一部は弥生時代に造られているものもあるようで、石見町の歴史を語るうえで欠かせない古墳群と言えます。

6 牛塚1号墳 県指定

胸張りのある無袖式横穴式石室

割田古墳と同様に中国山地に多い「無袖式横穴式石室」を持つ古墳で、石室の入口から奥壁まで保存状態は良好です。この石室は胸張り、すなわち中央部が奥壁や入口より幅が広くなっているのが特徴で、画一的に見えるこのタイプの石室にも個性があることがわかります。

7 やつおもて古墳群 那賀郡旭町重富

横穴式石室を持つ群集墳

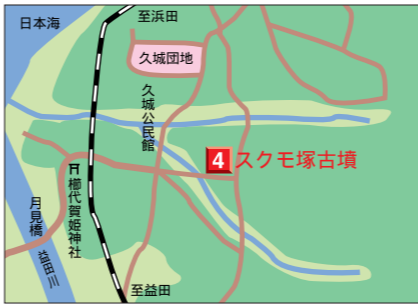
古墳時代中期後半から後期にかけて営まれた、二四基の古墳よりなる古墳群です。このうち一九九〇年に調査された一八号墳は、全長二八メートルと、石見山間部では最大の古墳です。また、古くから開口している九号墳は無袖式の横穴式石室で、後期に造られたものの多くが横穴式石室を持つことが予想されます。



4 スクモ塚古墳 国指定
益田市久城町



全長一〇メートル、県内最大級の前方後円墳とも考えられている古墳です。しかし、この古墳は後円部と前方部の間が著しく低くなっており、径六〇メートル近い大型の円墳と方墳が隣接したものと考えたほうが良さそうです。
墳丘の表面には置石が見られ、円筒埴輪も巡っており、石見を代表する大古墳です。



5 白上古墳 市指定
益田市白上町



石西を代表する横穴式石室
高津川の支流である白上川沿いにある古墳です。石室の平面形は細長く、石室入口付近は天井石が一段下がり、両側壁に突出した石が見られることから、両袖式の石室と思われる。
石見地域では、総じて無袖式の石室が多いのですが、鶴ノ鼻古墳群などにも見られるように、益田地域では袖を持った石室が多数分布しています。



6 小丸山古墳 市指定
益田市乙吉町



周溝を持つ大型前方後円墳
全長五六メートル、石西第三位の規模を持つ前方後円墳です。墳丘は前方部の幅が広く、周溝が巡っています。この古墳は一九八七年に後円部が破壊されました。このとき、山陰では初めての出土例となった鈴杵葉や馬鐙などが採取され、現在、復元整備されています。



2 大谷原古墳 町指定
鹿足郡六日市町広石



この古墳も墳丘は流失しており、石室の下半部のみが残っています。奥に立っている大きな石は奥壁で、石室の元の高さを知る手がかりです。石室内からは過去に大刀や勾玉などが出土しており、当時の有力者が葬られていたものと考えられています。案内板・説明板とも設置されており、すぐに見つけるは。



3 社寺脇古墳 町指定
鹿足郡日原町池村



一九七四年一〇月、道路工事の際に見えられた横穴式石室が埋没しているのか、残念ながら取材時には確認できませんでした。
この横穴墓からは、七世紀ころのものとして推定される長頸壺と呼ばれる須恵器が出土しており、これは日原町の歴史民俗資料館で見ることが出来ます。



4 三谷古墳群 町指定
美濃郡美都町三谷



益田川支流の三谷川沿いにある古墳群で、二つの横穴式石室が隣接して築かれています。いずれも保存状態はよく、玄室から羨道部までが直線的な無袖式の石室です。古く開口した石室の場合、副葬品が失われていることが多いのですが、この古墳群からは土器が発見されており、その形から七世紀に築造されたことがわかっています。



エリア10 石見山間西部

高津川と益田川の上流域であるこの地域は、古墳の数はあまり多くありません。とくに古墳時代前半の古墳の様子はよくわかっておらず、今後の調査に期待されます。しかし六日市町の大谷原古墳や美都町の三谷古墳群など、横穴式石室をもつ後期の古墳は各小平野ごとに見られ、その様相は江の川流域と同様、山陽地方の山間部の影響があるようです。
このような地域では各小平野が川で結ばれていることが多く古墳を調べることで、当時の地域間交流がつかやすすくなるかもしれません。



1 抜月古墳 町指定
鹿足郡六日市町抜月



田んぼの中の石室
鹿足郡で初めて発見された古墳で、地元では石積古墳とも呼ばれています。現在、墳丘はほとんど残っており、横穴式石室が丸見えの状態です。石室は、もと四メートル以上あったと推定され、中から直刀や糸つむぎ用の紡錘車、須恵器の壺などが出土しています。墳丘の様子はわかりませんが、石室の石組方法がよくわかる古墳といえます。



エリア11 隠岐島前

隠岐島前は西ノ島、中ノ島、知夫里島の三つの大きな島に分かれています。古墳はいずれの島にもありますが、分布は内海側と本土側に偏り、外海側には少ないようです。
島後と同じく横穴式石室や横穴墓が多く見られますが、前方後円墳がほとんどないのが島後と大きく違う点です。今このころ隠岐最古の古墳とされる海士町の新開古墳群、玉類を二〇個以上も出土した知夫村の高津久横穴墓群など、注目すべき古墳もあります。
島前のように海によって明確に三つの地域に分かれる場合、古墳を調べることで、古墳時代にそれぞれの島がどんな関係にあったのか推定しやすいという、本土にはないメリットがあります。島後との関係も古墳によってわかるかもしれません。



1 猫ヶ岩屋古墳
隠岐郡知夫村富内

人里離れた地にある古墳。知夫赤壁にほど近い、狭い谷にある古墳です。その場にある石も利用しながら、自然石を積んで大型の天井石をかけた横穴式石室が見えます。長さ六メートルはある、立派な石室です。人里離れた場所にある古墳ですが、地元の人によれば、今は不便だけど、昔は知夫でもっとも住みやすい環境がよい所」だそうです。



2 神崎横穴墓群
隠岐郡海士町海士

保存がよい横穴墓群。海士町中心部の東にそびえる金光寺山のふもと、民家の裏に大きく口を開けています。横穴の前に急角度で箱形に造られた大きな前庭がよくわかります。前庭だけで長さ七メートルはあります。奥の部屋も規模が大きく、つくりも丁寧です。家の物置きになっているので、見るときは断わることを忘れずに。



3 新開古墳群
隠岐郡海士町海士

諏訪港を見おろす丘の上に築かれた古墳群で、特別養護老人ホームのすぐ隣りにあります。もとは四つの古墳が並んでいましたが、今は四号墳だけが残され整備されています。直径一〇メートルと小型ですが、浅い溝で囲まれ、その一部には通路状の土橋が付いている珍しい古墳です。



4 御波横穴墓群
隠岐郡海士町御波



外海に面した御波港の斜面にある横穴墓群です。道に面した廃屋の裏側をよく見ると、穴が開いているのがわかります。下の方にある穴は、「芋ケラ」と呼ばれる穀物の貯蔵穴である可能性が高いですが、上の方にあるのは明らかに横穴墓で、少なくとも七穴はあるようです。中段あたりには、はいれそうなものもあり、のぞくと、奥行きは三メートル以上、高さも三メートル近くある、巨大な横穴墓であることがわかります。天井は家形に加工されており、手前側は加工が粗いですが、奥側は丁寧に仕上げられています。目を近づけると、壁を削った時にできる工具痕も見えます。



5 来居1号横穴墓
隠岐郡西ノ島町美田

美田湾に面した海岸沿いにある横穴墓群で、中にはいれるのは一穴だけで、ほかの七穴は現在は道路の壁面に痕跡が認められるだけです。一穴はきれいに整った家形の玄室を持ち、過去の調査で直刀や土器、木棺の釘などが出土しました。遺物から、七世紀ごろの築造と考えられています。入口に説明板があります。



6 美田尻古墳
隠岐郡西ノ島町美田

別府港フェリー乗場のすぐ西側にある丘陵のつべんにある古墳です。西側の八幡宮から山道に登ると、こんもりとした墳丘が見えます。墳丘は径約一五メートル、二段築成で墓石も見られません。造られた当初は白くて遠くからもよく見えたはずですが、



エリア12 隠岐島後

島後は本土から五〇キロ以上離れていますが、島前と同様、数多くの古墳があります。有名な古社である玉若酢命神社、水若酢神社周辺は古墳が多く、前方後円墳もこの二カ所に集中しています。

なかでも平神社古墳は横穴式石室を持つ全長四八メートルの前方後円墳です。また固い岩山に掘り込まれた横穴墓が多いのも特徴で、西郷町の飯の山横穴墓群は現在大半が失われていますが、もとは五〇基以上の横穴墓があったと言われています。

島後も島前同様に数多くの古墳が造られています。地域が限定できるところが、今後調査が進めば、この二つの地域は本土より具体的な古墳時代像が明らかになると思います。



1 平神社古墳
県指定
隠岐郡西郷町平



隠岐で墳輪が見つかったのはこの古墳だけといわれていますが、今は墓石らしいものしか確認できません。くびれ部付近に窪みがあり、奥と右側に石積みが見られます。これは横穴式石室の奥壁と側壁だけが残っているもので、天井石や羨道部分は失われています。石室は全体に小型の石を使用しており、この古墳の南西約一〇メートルの丘陵斜面にある平西古墳の石室に比べ、古い様相を残しています。この平西古墳は石室がよく残っており、平神社古墳の次に造られた古墳かもしれません。



2 北方横穴墓群
隠岐郡五箇村北方

五箇村役場の裏山斜面にある横穴墓群で、一八基以上あると言われています。取材で確認できたのは一二基で、いずれも岩盤に掘り込まれたものばかりです。かなり崩れたものもありますが、中には玄室が家形で、奥壁沿いに作り付けのベッドを備えるものもあります。壁の一部が赤く見えますが、彩色がどうかは確認できていません。



法則? 「神社の裏には古墳がある」
3 玉若酢命神社古墳群 県指定
隠岐郡西郷町西

多
? / 5~6?

八百杉がある神社として有名な玉若酢命神社の裏山にあり、神社北側の道を登っていくと古墳群が現れます。頂上には県内でもっとも形がよくわかる部類の前方後円墳があり、後円部頂上には石室の石らしきものが認められます。全長は三メートル、高さは一・六メートルあります。



一〇穴以上あるはずだが……
4 釜田横穴墓群
隠岐郡都万村都万

多
? / 6後~7?

住宅の裏山にある横穴墓群で、遺跡地図には一五基と書かれています。三基以上はなかなか確認できません。ようやく見つけたものは玄室の天井が低く平たいタイプで、床には初穀が敷いてあります。これは最近まで、作物を貯蔵するための横穴として再利用されていたためです。



裸の石室
5 水若酢神社古墳
隠岐郡五箇村都

多
? / 6後

神社の東側に大きな石が並んで立っているのが、隠岐最長の横穴式石室です。天井石はなくなっており、玄室は埋められていますが、中には石棺が二つあったとされます。石の並びがやや不自然ですが、確かに長い石室だということがわかります。墳丘の土が残っていないのが残念です。



「墳輪?があった」
6 美々津丘1・2号墳
隠岐郡五箇村南

多
? / 5~6?

遺跡地図には二つの古墳ではなく、一号墳と二号墳とで一つの前方後円墳かと書かれていますが、しかし実際に見ると、後円部と前方部の間が低すぎ、二つの古墳のような感じがします。後円部から土器片が見つかったり、小さすぎて正確なことはわかりませんが、ひょっとすると隠岐二例目の墳輪を持つ古墳かもしれません。



古墳Q&Aコーナー



Q 島根県内に古墳はいくつありますか

A 島根県遺跡地図(一九九三年版)によると、出雲部三七三基以上、石見部四三三基以上、隠岐部三五六基以上で、合計四五二〇基以上となります。未確認の古墳や、知らないうちに消滅してしまったものもあつたであろうから、その実数は五〇〇〇基を超えると推定されます。

Q 県内にはどんな形をした古墳がいちばん多いですか

A 遺跡地図によれば、方墳が二二四五基以上、円墳はほぼ同数で二二四八基以上、前方後円墳九六基、前方後方墳六三基以上、不明

一八六八基以上(可能性も含んだ数字)となります。長さ〇メートル未満の小さな古墳の場合、発掘調査しなければ形がわかりません。中には八雲村の増福寺古墳群のように、調査前は円墳と考えられていたものが、調査したらすべて方墳だった例もあります。また全国的に見ても方墳の占める割合が非常に高いことは早くから指摘されており、とくに松江周辺にその傾向が強い点が注目されます。

Q 横穴式石室や石棺に使われている大きな石は、どこからどうやって運んだのですか

A 使われた石の産地はすべてわかっているわけではありませんが、安来で採れる荒島石や穴道町で採れる来待石などは、かなり広い範囲に運ばれています。たとえば荒島石は約一四キロ離れた松江市東田町にある太田古墳群の石室に使われています。荒島石や来待石を使った古墳は宍道湖・中海沿岸に多く分布しており、石を船で運んだと考えられます。陸揚げしてからは当然陸路を運ばねばならず、修羅と呼ばれる大きな木を舟に載せて大勢で引きながら運んだものと推定されています。

Q 古墳に葬られたのはどんな人たちですか

A 現在のお墓と違い、県内の古墳には墓誌銘(死者の名前や年表を記したものの)が残された例は今のところありません。しかし古墳を造るためには大勢の人の力が必要であることから、これらの人びとをまとめる力を持った人物であることは間違いないと思います。さらに古墳の大きさもさまざまであることから、当時の政治的勢力関係を反映しているものと考えてよいと思われます。ただ、古

墳に葬られるのはくわすかな人たちであることは確かです。多くの方は古墳を造られることはあつても、古墳に埋葬してもらえないことはあつたのです。

Q 古墳の年代はどうやって決めるのですか

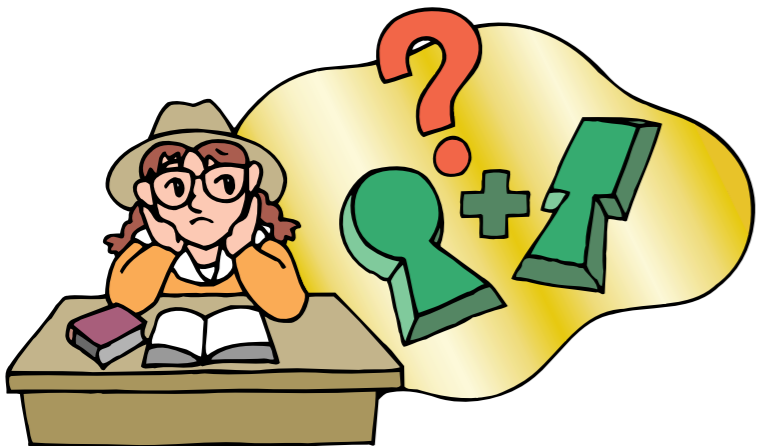
A 古墳時代には一部で文字が使われ始めていますが、現在のように普及していったわけではないので、年と書かれたものはくわすかしかありません。そこで考古学では、古墳から出土した土器や墳輪などの形の変化から、その年代を推定します。ちょうど現在の自動車が一三三三年にトヨタのモデルチェンジをして形が変わっていくことを思い浮かべてもらえばわかりやすいと思います。あとは古墳から出土した中国製の鏡に書かれた年号や、日本書紀『魏志倭人伝』などの記述を手がかりに推定しています。このほか科学的な方法としては、出土した木の年輪の間隔パターンから年代を決めたり、地磁気(ちまき)の方向が時代によってかわることを利用して推定する方法などがあります。

Q 発掘調査されたあとの古墳はどんなふうになるのですか

A 発掘には古墳研究を目的として行うものと、道路や住宅団地を造るときに行つても残せないものを対象とするものがあります。前者の場合、発掘したあとにはまた埋め戻されますが、現在行われているのは後者がほとんどで、毎年多く(一九九五年の島根県の調査だけでも、横穴墓を含めて七〇基以上)の古墳が発掘されています。出土したものはきちんと記録・保管され、歴史的に価値の高い古墳であることがわかれば、工事の設計を変更して古墳を保存するようになり、古墳を別の場所に移築することになります。これ以外の古墳は記録にとどめ、その場所は道路や住宅地になります。

Q 古墳を見学したときに土器や墳輪を拾いました。どうしたらいいのでしょうか

A 古墳にかぎらず、遺跡から出土した土器などの遺物は、法律上「遺失物」になります。つまり道で財布を拾ったのと同じことになるわけです。遺失物法という法律によれば警察に届けることになっていますが、土器などの場合は発見した地元(教育委員会)に届けられたほうがいいです。見つけたものは拾わずに置いておくか、かならず届け出てください。





みなさん、古墳^{こふん}
探検の旅を楽しんで
いただけましたか。私たちの
探検はまだまだ続きます。
またどこかの古墳でお
会いしましょう。

あー！下を見て
あれも古墳よ！

あごがき 古墳時代の島根県

もしあなたが県内の古墳をすべて見学できたとしたら、「自分の住む町には六世紀の古墳が多い」とか、「前方後円墳はこの川の東側にしかない」「なまぐさの川に気づくだけでよい」とはいえ、実際に入って古墳を見学するのはむずかしいものがあります。そこでここではこれまでの古墳研究でわかりつつある事実を、簡単にまとめてみました。

島根県は、「出雲」「石見」「隠岐」の三地域からなりますが、これらの地域は古墳時代の文化の内容においてもそれぞれ地域でさまざまな特色を持っています。

「卑弥呼の鏡」を持つ古墳

全国で古墳の築造が始まったころ、すなわち四世紀の古墳は島根県内ではあまり多く見つかっていません。初期に造られた大型古墳は、長い「割竹形木棺」とこれをとおう「竪穴式石室」を埋葬施設としていますが、副葬品の中に「三角縁神獸鏡」と呼ばれる大きな鏡を持つものがあることも特徴です。

三角縁神獸鏡は、近畿地方の豪族から各地の豪族に配られたものと考えられています。そしてこの鏡は、もとは中国の史書「魏志倭人伝に言う「女王・卑弥呼」が、中国の魏王朝から与えられたものだという説があります。県内では、神原神社古墳(大原郡加茂町)をはじめ、大成古墳(安来市)、八日山1号墳(松江市)、四塚山古墳(益田市)などで発見されており、このうち神原神社古墳発見のものに「卑弥呼が魏に使いを送ったとされる年、景初三年(西暦三三九年)」という文字が見られ、注目されています。

各地の王者

古墳の大きさは、その築造に動員できる人の数、すなわち支配力の大きさを反映したものと言われています。県内各地にある大きな古墳を比較してみると、出雲では大念寺古墳(出雲市)が九メートル以上、山代二子塚(松江市)が推定九メートル、石見では大元1号墳(益田市)が八メートル、隠岐では平神社古墳(隠岐郡西郷町)が四メートルとなります。

これらの古墳が造られた時代は、石見の大元1号墳が四世紀、周布古墳が五世紀とされているのに対し、出雲と隠岐の古墳は六世紀のもので、全国的に見ると五世紀に最大の古墳を造り、六世紀にはいると規模が縮小する地域が多い中で、なぜ出雲で六世紀に最大の古墳が造られたのか、大きな関心を集めています。(図1、2)

「前方後方墳」の多い出雲

「前方後円墳」や「前方後方墳」は、全国でトーンクラス力を持った豪族のために造られた古墳と考えられています。県内では現在のところ、前方後円墳が九四基、前方後方墳が三八基あることがわかっています。ほとんどは出雲部に分布しています。とくに前方後方墳は、三七基が出雲、とりわけその東部に分布しており、全国的にもその密度が高い地域と言えます。

また「前方後方墳」という言葉は、島根県史編纂委員を務めた野津左馬之助氏が、一九二五年に『島根県史』の中で、山代二子塚(松江市)を観察し、名付けたのが最初です。その意味で、出雲が「前方後方墳の名称発祥の地」と言えるでしょう。

石棺の多い出雲

出雲は出雲灯籠で知られる来待石(凝灰質砂岩)や荒島石(浮石凝灰岩)などのように、加工しやすい石材に恵まれた所です。古墳時代の人びともこれらの石材に早くから目をつけ、石棺や石室の用材として利用しました。石棺は、舟形石棺や家形石棺といった種類が数多く作られており、出雲は全国的にも石棺が多い地域のひとつです。

舟形石棺は神庭岩船山古墳(簗川郡斐川町)や鹿壳塚古墳(安来市)など、五世紀の大型古墳に採用され、その分布は宍道湖・中海の沿岸部に集中しているのが特徴です。

家形石棺は、上島古墳(平田市)など六世紀中ごろのものが多く、七世紀前半ごろまで見られます。出雲の家形石棺の特徴は、

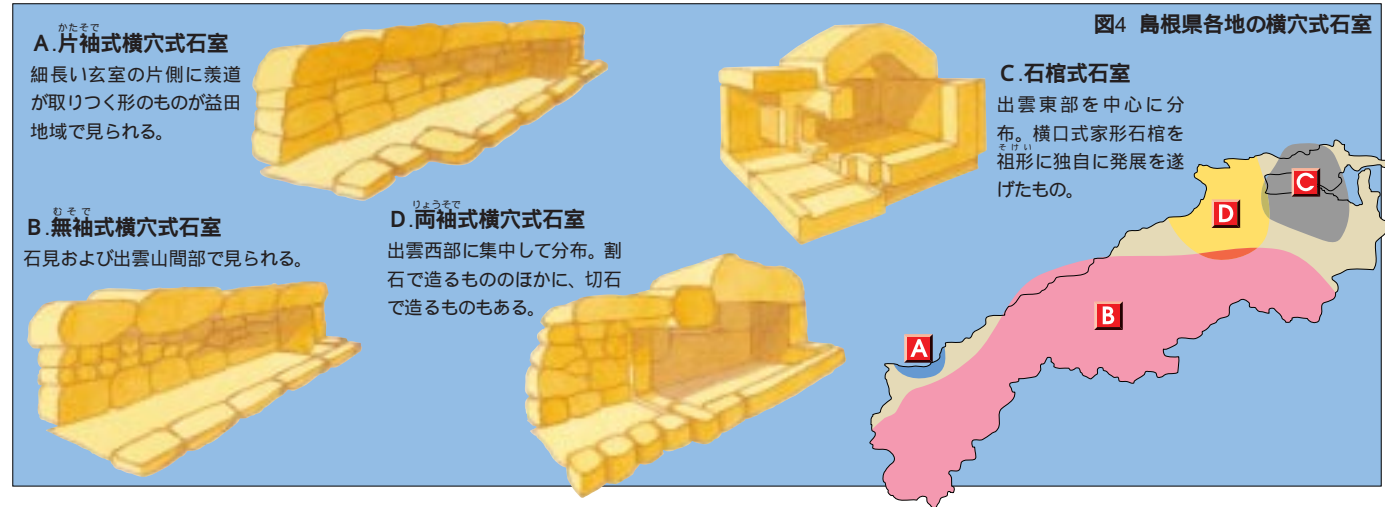
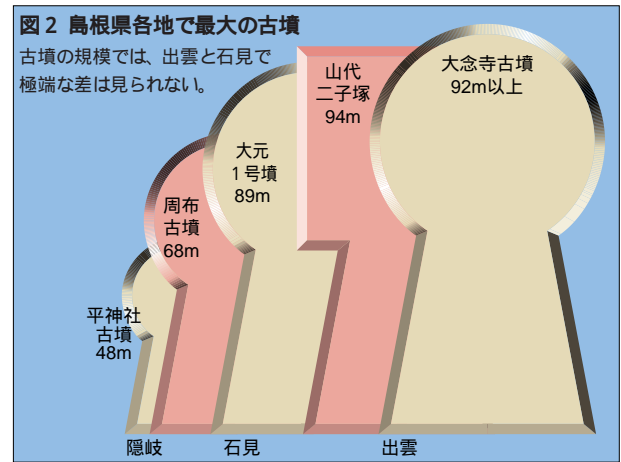
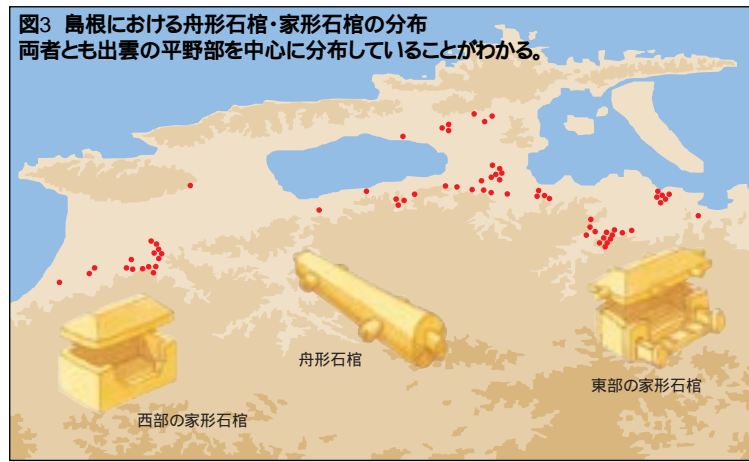
横穴式石室の広がり

六世紀になると、支配者である豪族だけでなく、富裕な農民たちにも小さな古墳の築造が許されるようになったと考えられています。横穴式石室は、大型古墳はもろろんこつた小型古墳の埋葬施設としても発達したもので、その形態は地域によって顕著に違いが見られます。

出雲では東部と西部、それに山間部(雲南地方)で大きくその様相が異なります。このうち東部を中心に盛んに造られた石棺式石室は、古天神古墳(松江市)に見られるように横口式家形石棺を大型化・石室化し、墳丘に直接埋めるといった構造を持っています。全国的にも珍しいタイプの横穴式石室です。また出雲の西部では、大念寺古墳(出雲市)や上塩治築山古墳(同)など、割石または切石で造られた全国的に見ても巨大な石室が出現します。

雲南から石見にかけては、自然石・割石で造られた、平面形が細長い石室が分布しています。代表的なものとしては、雲南では穴観2号墳(仁多郡仁多町)石見では片山古墳(浜田市)、鶴ノ鼻古墳群(益田市)割田古墳(邑智郡石見町)などがあげられますが、細かく見ると、各地域でそれぞれ特徴を持った石室が造られています。

(図4)



時期	隠岐	石見		出雲					
		西部	東部	内陸部	西部	中部	東部		
前(四世紀)	甲ノ原2号	四塚山	中山B1号	神原神社	名分丸山1号	奥才13号	八日山1号	大成	造山1号
中(五世紀)	斎京谷1号	大元1号		松本1号	大寺1号	奥才14号	大垣大塚1号	寺床1号	宮山1号
	能木原3号	スクモ塚			北光寺	丹花庵	金崎1号	鶏塚	宮山3号
後(六世紀)	玉若許命神社	周布	八表18号		神庭岩船山	古曾志大谷	魚見塚	手間	山代二子塚
	美々津丘	小丸山			大念寺	林43号	薄井原	御崎山	岡田山1号
終末期(七世紀)	水若許	17 32	明神		妙蓮寺山	椎山		山代方墳	飯梨岩舟
		鶴ノ鼻 50号	野伏原		穴観2号	地蔵山		廻原1号	永久宅後
		片山	空山		岩屋				若塚

図1 島根県内のおもな古墳の変遷(推定も含む)
石見の大型古墳は古墳時代前半に多いのに対し、出雲では大型古墳が後半まで続く。また前方後方墳や方墳は、出雲でもとくに東部に多いことがわかる。

横穴墓の多い出雲

横穴墓は横穴式石室と同様、古墳時代の後期の代表的な埋葬施設の一つです。その分布は全国的に見ると、関東、大阪周辺、福岡・大分北部、熊本、そして山陰などに偏っているのが特徴です。

出雲県では、現在のところ六〇〇カ所近くの横穴墓群が知られていますが、その

うち四六〇カ所、全体の七八パーセントは出雲に集中しています。石見では八

カ所（一四パーセント）がわかっています。これらは大田市や益田市付近にまとまって分布しています。また隠岐では四五カ所（八パーセント）あまり見られませんが、島の面積を考えると、比較的分布密度が高いと言えます。（図5および7巻を参照）

横穴式石室に見る出雲と九州

出雲東部に横穴式石室が伝えられたのは全国的にはやや遅く、六世紀の中ごろと考えられています。このころのものは松江周辺に多く、近畿や九州北部・九州中部と、各地の影響を受けたさまざまな形の石室が見られます。やがて六世紀後半になると、松江市のほか八束郡や安来市などで、横穴式石室の一種である石棺式石室が造られるようになります。この石

室は、肥後現在の熊本県に見られる横穴式家形石棺をモデルとしており、出雲東部で独特な形に整えられたものです。横穴式石室の築造は複雑な土木工事であり、形態の類似は、石室造りの技術者の交流を推測させますが、なぜ出雲と九州に結びつきが生まれたのか、当時地方支配の強化に乗り出していた大和の動きと合わせて、たいへん注目されるところです。

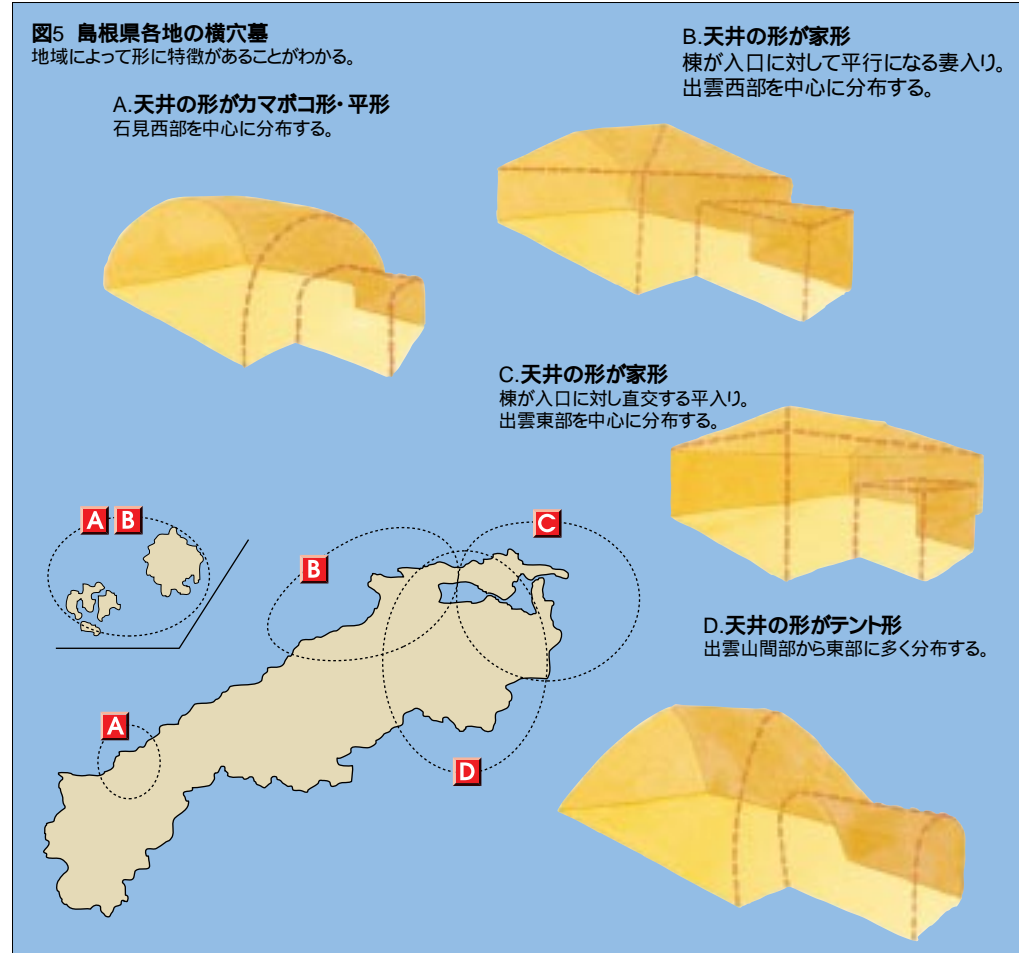


図5 島根県各地の横穴墓
地域によって形に特徴があることがわかる。

A. 天井の形がカマボコ形・平形
石見西部を中心に分布する。

B. 天井の形が家形
棟が入口に対して平行になる妻入り。
出雲西部を中心に分布する。

C. 天井の形が家形
棟が入口に対し直交する平入り。
出雲東部を中心に分布する。

D. 天井の形がテント形
出雲山間部から東部に多く分布する。



出雲の石棺式石室

図6 出雲の石棺式石室と肥後の横口式家形石棺
出雲で6世紀後半に造られた石棺式石室は、九州の肥後で5世紀末～6世紀前半に造られた横口式家形石棺とよく似た構造をしており、これをモデルとした可能性が考えられる。

*もっと知りたい人のために

ほとんどの本が廃版となっていますので、図書館でご覧になることをおすすめします。また、このほか郷土の歴史を綴った市町村史(誌)に、それぞれの地域の古墳が詳しく書かれています。

- 山本 清ほか『山陰古代史の周辺』上・中・下 山陰中央新報社 一九七八―七九
- 『八雲立つ出雲の世界』えとのす16 新日本教育図書 一九八一
- 前島己基『島根』日本の古代遺跡20 保育社 一九八五
- 渡辺貞幸ほか『王権の争奪』日本古代史4 集英社 一九八六
- 白石太一郎編『古墳時代の工芸』古代史復元7 講談社 一九八九
- 山本 清『出雲の古代文化』人類史叢書8 六興出版 一九八九
- 都出比呂志編『古墳時代の王と民衆』古代史復元6 講談社 一九八九
- 大塚初重ほか編『日本古墳大辞典』東京堂出版 一九八九
- 松本岩雄ほか『古墳時代の研究』10 地域の古墳 西日本 雄山閣出版 一九九〇
- 西尾克己・大國晴雄『出雲平野の古墳』出雲市民文庫9 出雲市教育委員会 一九九一
- 渡辺貞幸ほか『古代史シンポジウム・大和政権への道』日本放送教育協会 一九九一
- 渡辺貞幸ほか『前方後円墳集成』中国・四国編 山川出版社 一九九一
- 勝部 昭ほか『図説日本の歴史』古代3 同朋舎出版 一九九一
- 西尾克己『宍道町の古墳時代』宍道町ふるさと文庫6 宍道町教育委員会 一九九一
- 西尾克己ほか『宍道町の横穴墓』横穴式石室集成(古墳時代編) 宍道町教育委員会 一九九三
- 山本 清『古代出雲の考古学』遺跡と歩んだ七十年 『ハーベスト出版 一九九五
- 山本 清編『出雲国風土記の巻』風土記の考古学3 同成社 一九九五
- 渡辺貞幸『出雲世界と古代の山陰』古代王権と交流7 名著出版 一九九五
- 山本 清監修『島根県の地名』日本歴史地名体系33 平凡社 一九九五

いにしへの島根ガイドブック編集委員会

事務局 島根県古代文化センター
松江市打出町33
TEL.0852-36-8523

本巻の執筆・編集者（五十音順）

大本公良
角田徳幸
椿 真治
萩 雅人
日高 淳
守岡正司

イラストレーション

須山美玲（探検隊原画）
安達茂樹

写真

牛島 茂
いにしへの島根ガイドブック編集委員会

デザイン

川島清志/A.D.
和田 工
柳原信哉
森山登紀子
松本 隆

データ出力

株式会社 山陰プロセス

本巻の制作にご協力いただいた関係者各位は以下のとおりです。

海士町教育委員会
出雲市教育委員会
隠岐島後教育委員会
大和村教育委員会
知夫村教育委員会
浜田市教育委員会（写真提供）
西ノ島町教育委員会
松江市教育委員会
島根県立八雲立つ風土記の丘
岡山大学文学部考古学研究室
出雲考古学研究会
金山尚志（順不同・敬称略）

いにしへの島根ガイドブック第3巻 いにしえ探検隊 古墳を歩く 1996年3月31日 第1刷発行

発行	島根県教育委員会
企画・編集	島根県古代文化センター
制作	株式会社エムシースクエア
印刷	有限会社谷口印刷
